Machine Translated by Google

ブロックPDF

文書化

バージョン
2024.04.17.1511

BLOCKPDF.DE

著作権©2024 TADELSUCHT UG (有限責任)

Machine Translated by Google

1 はじめに1.1 機能の概要。 7
7
1.2 インストール。 9
1.2.1 Windows。。。 9
1.2.1.1 インストーラー。 9
1.2.1.2 ZIP ファイル。。 11
1.2.2 MacOS。。。。 11
1.2.2.1 .app アプリケーション。。。 11
1.2.2.2 ZIP ファイル。。 11
1.2.3 Linux。 12
1.2.3.1 ZIP ファイル。。 12

2 技術情報 13
2.1 ブロック。。。 13
2.2 データソース。 14
2.2.1 定数テキスト。。。。 14
2.2.2 日付と時刻。。 14
2.2.3 Excel テーブル/CSV テーブル。 14
2.2.4 JSON。 15
2.2.5 Microsoft Access。。。 16
2.2.6 Microsoft SQL。 17
2.2.7 MySQL/MariaDB。。 17
2.2.8 埋め込みテキスト ファイル。 18
2.2.9 XML 18
2.3 ワークフロー。 19
2.3.1 操作ノード。 20
2.3.1.1 マージ。。。 20
2.3.1.2 値を置き換えます。 20
2.3.2 出力ノード。。。 20
2.4 データ型。 21
2.4.1 テキスト。 21
2.4.2 整数。。。 21
2.4.3 浮動小数点数。。。 21
2.4.4 ブール値 (1 / 0、有効 / 無効、...)。 21
2.4.4.1 trueとしての解釈2.4.4.2 falseとしての解釈 21
22
2.4.5 カラー (ARGB)。 23
2.4.6 ファイル パスまたはバイナリ ファイル (Base64)。。。。 23
2.4.7 ページ形式。 24
2.4.8 フォントの太さ。 24

Machine Translated by Google

2.4.9 水平方向の配置。 24

2.4.10 垂直方向の配置。 24

2.4.11 画像のスケーリング。 24

2.4.12 インライン整列。。 24

2.4.13 テキストの配置。。。。 24

2.4.14 テキストの方向。 24

3 クイックスタートと例 25

3.1 行と列を含むレイアウト。 25

3.2 複雑な文書の構造化。。。 25

3.3 文書の例: 請求書。 25

4 ユーザーインターフェース（UI)の詳細 26

4.1 ホームページ。 26

4.1.1 ようこそ。 27

4.1.2 テンプレート。。。 29

4.1.3 設定。 30

4.1.3.1 ユーザーインターフェイス。。 30

4.1.3.2 文書。 31

4.1.3.3 データ。。。。 31

4.1.3.4 システム。。。 31

4.1.3.5 ファイルの自動バックアップ。 31

4.1.4 サポート窓口。。。。 32

4.1.5 ドキュメントウィンドウ。。。。 33

4.2 文書。 33

4.2.1 ファンクションバー。。。。 34

4.2.2 ツールボックス。。。。 34

4.2.3 文書ブロック (ブロック階層) 。 34

4.2.4 ブロックのプロパティ。 35

4.2.5 ドキュメントをプレビューします。。。。 37

4.2.6 ブロック コンテキスト メニュー (右クリック) 。 37

4.3 ファイル名。 39

4.3.1 ファイル名ツールボックス。 39

4.3.1.1 データソースの行番号。。 39

4.3.1.2 定数テキスト。。。。 39

4.3.1.3 日付/時刻。。。。 39

4.3.1.4 動的データ。。 39

4.3.2 ファイル名の構成要素。 40

4.3.3 ファイル名のリスト。。。 40

4.3.3.1 自動更新。。 40

Machine Translated by Google

4.3.3.2 エラーをチェックします。。。 40
4.4 データの概要。。。。 41
4.4.1 動的データを含むブロック。 41
4.4.2 動的データのワークフロー。 41
4.5 シンプルなワークフローエディター。。 42
4.5.1 データソース。 42
4.5.2 データソースの構成/オプション。 43
4.5.3 データ。 43
4.6 高度なワークフロー エディター。 43
4.6.1 ツールボックス。。。。 44
4.6.2 ワークフロー。。。 44
4.6.3 オプション。。。 44
4.6.4 要素のプロパティ。。 45
4.7 完了。 46
4.7.1 文書の作成。 46
4.7.2 プレビュー。。。 47
4.7.3 完成した文書。。。 47

5ブロック 48
5.1 相対ブロック。。。。 48
5.1.1 視覚的。。。。 49
5.1.1.1 テキストフラグメントコンテナ/テキストフラグメント。 49
5.1.1.2 背景。 50
5.1.1.3 フレーム。。 51
5.1.1.4 画像。 51
5.1.1.5 水平に線を引きます。。。。 52
5.1.1.6 垂直線。 52
5.1.1.7 テキスト。 52
5.1.1.8 プレースホルダー。 54
5.1.1.9 現在のページ番号。。 54
5.1.1.10 総ページ数。。。 54
5.1.2 位置決め。 55
5.1.2.1 位置合わせ。 55
5.1.2.2 アスペクト比。。。。 55
5.1.2.3 水平方向と垂直方向に拡張します。。。 55
5.1.2.4 水平方向に拡張します。 56
5.1.2.5 垂直方向に拡張します。。 56
5.1.2.6 水平方向に回転します。。 56
5.1.2.7 ひっくり返します。 56
5.1.2.8 垂直方向に回転します。。。。 56

Machine Translated by Google

5.1.2.9 高さ。。。。 56
5.1.2.10 最小/最大高さ。。。。 57
5.1.2.11 最小/最大幅。。。。 57
5.1.2.12 内部距離。 57
5.1.2.13 左に曲がります。。。 58
5.1.2.14 右に曲がります。。 58
5.1.2.15 スケーリング。。 58
5.1.2.16 必要に応じてスケールします。 58
5.1.2.17 縮小。 58
5.1.2.18 水平方向に縮小します。 59
5.1.2.19 垂直方向に縮小します。 59
5.1.2.20 シフト。 59
5.1.2.21 無制限。。。 59
5.1.2.22 幅。。。。 59
5.1.3 コンテンツフロー。 61
5.1.3.1 場所を確保します。 61
5.1.3.2 改ページ。。。。 61
5.1.3.3 完全に表示します。 61
5.1.3.4 かどうかを表示します。 61
5.1.3.5 1 回だけ表示します。。。 62
5.1.3.6 1 回スキップします。 62
5.1.3.7 ページ変更を停止します。 62
5.1.4 レイアウト。。。。 63
5.1.4.1 ページブロック。 63
5.1.4.2 ラインブロック。 63
5.1.4.3 列ブロック。。。。 64
5.1.4.4 インライン。。。。 65
5.1.4.5 レイヤー。。 65
5.1.5 その他のブロック。 67
5.1.5.1 コンテンツの方向は左から右。。 67
5.1.5.2 コンテンツの方向は右から左。。 67
5.1.5.3 デバッグ領域。。。。 67
5.1.5.4 デフォルトのテキストスタイル。。。 67
5.1.5.5 ハイパーリンク。。 69
5.1.5.6 セクション。。 69
5.1.5.7 セクションリンク。。。。 69
5.2 絶対ブロック。。。 71
5.2.1 画像（絶対位置決め） 71
5.2.2 フォームフィールド。。。。 72

Machine Translated by Google

5.2.2.1 オプションボタン。 72
5.2.2.2 チェックボックス。。。 73
5.2.2.3 コンボボックス。 73
5.2.2.4 日付と時刻。。 74
5.2.2.5 リストフィールド。。 74
5.2.2.6 署名。 75
5.2.2.7 テキストフィールド。。。 76
5.2.3 ファイルの添付。 76
5.3 バーコードフィールド。 78
5.3.1 データマトリックス。。 78
5.3.2 PDF417。。。。 78
5.3.3 QR コード。。。 79
5.3.4 コーダバー。。。 80
5.3.5 コード11。。。。 80
5.3.6 コード 128、コード 128A、コード 128B、コード 129C、GS1 コード 128。。81
5.3.7 コード39、コード93。。。。 82
5.3.8 コード UPC。。 82
5.3.9 EAN-13、EAN-8。。。。 83
5.4 その他のブロック。。。。 84
5.4.1 コメント。 84
5.4.2 イテレータ。。。。 84
5.4.3 を繰り返します。 85

6つのコマンドライン(CLI) 86
6.1 パラメータリスト。。。。 86
6.2 コンソール アプリケーションの出力。。。 87

7 ドキュメント、テンプレート、およびブロック構造7.1 BlockPDF ドキュメント (.BlockPDF)。。。 89
89
7.1.1 .BlockPDF ファイルの例。。。。 89
7.1.2 特殊変数。。 92
7.2 テンプレート ファイル。。。。 92
7.2.1 ドキュメントテンプレート (.BlockPDF.zip)。。。 92
7.2.2 プレハブブロック構造 (.BlockPart)。 93
7.2.3 テンプレートとブロック構造の提供。 93

8 ローカル設定ファイル8.1 テンプレート領域。。 95
96
8.2 UIエリア。 97
8.3 コア領域。 98

Machine Translated by Google

8.4 自動保存領域。 。 99

9 つのヒントとコツ 100

9.1 通常の PDF ファイルをテンプレートとしてインポートします。 。 100

9.2 文書および文書ファイル内の相対パスとシステム変数

テンプレート。 。 100

9.3 相対行。 。 。 。 101

9.4 透かし。 。 。 。 101

9.5 接続文字列。 。 101

9.6 ドキュメントを同時に印刷する。 102

9.7 日付の形式。 102

9.8 背景画像。 。 104

9.9 画像とファイルをテキストとしてデータ ソースに保存します。 105

9.9.1 画像とファイルをテンプレートに保存します。 。 105

10 のよくある質問 (FAQ) 106

参考文献11件 107

Machine Translated by Google

1

導入

BlockPDF へようこそ。プログラミングの知識がなくても、個々の PDF ドキュメントを簡単かつ自動で作成できるソリューションです。
BlockPDF は、ビジネス プロセスに合わせて大量のカスタマイズされたドキュメントを必要とするユーザーに特に適しています。私たちのアプリケーションを使用すると、Excel ファイルや SQL データベースなどのさまざまなソースからデータにアクセスできます。
PDF ドキュメントに統合します。これにより、たとえば、請求書番号、品目などの各顧客の特定の情報をデータベースから直接取得する請求書を作成できます。 Block PDF は、以下を含むモジュール式ブロックを通じてドキュメントの柔軟なデザインを提供します。

テキスト、画像、背景色、フォームフィールド、署名、バーコード、QR コード。各要素は個別にカスタマイズできるため、たとえば、
特定の条件下でテキストまたは追加コンテンツの色を変更する
表示できる。

1.1 機能概要

BlockPDF は自動作成のためのさまざまな機能を提供します
データに依存する個別の PDF ドキュメント。主な機能はこちら
年:

1. データに基づいたユーザーフレンドリーな自動作成

Machine Translated by Google

プログラミングの知識を必要とせずに (コードなしで) 保留中の PDF ドキュメントを作成できます。

2. フォーム、請求書、オファー、契約書、証明書など、さまざまな種類の PDF ドキュメントを作成します。

ビジネスプロセス上、大量に必要となるその他の書類
なる。

3. Excel、CSV、XML、JSON ファイルや SQL Server、MS Access、MySQL/MariaDB データベースなどのさまざまなソースからのデータ統合
PDF ドキュメントに記入します。

4. PDF ドキュメントを構造化するためのモジュール要素 (ブロック) の使用。
相互に反応し、相互に構築されてコンテンツが作成されます。
ドキュメントのレイアウトを定義します。

5. 個別ページを含むさまざまな用途に対応する幅広いブロック、
テキスト、画像、背景色、フォームフィールド、署名、バーコード、
QR コード。それぞれにフォント サイズや色などの設定可能なプロパティが付いています。
そして位置。

6. データ ソースへのアクセスによるドキュメントの動的な調整と入力により、請求書番号、請求書データ、顧客住所、注文した商品、価格などのコンテンツがデータ ソースから自動的に取得されます。

PDF ドキュメントで取得および使用されます。

7. データソースに基づいてブロックのプロパティを調整します。
これは、テキストだけでなく、ブロックのすべてのプロパティも、たとえば色を変更するなどして動的に調整できることを意味します。
テキストの特定の部分、または状況に応じて追加のテキストが表示されます。
特定の条件。

8. データ ソース データに基づいて PDF ファイルに動的に名前を付け、それぞれに個別の状況に応じた名前を付けます。
PDFドキュメントの作成が可能。

Machine Translated by Google

1.2 インストール

このアプリケーションは、サポートされているすべてのプラットフォームに統一された基盤を作成することを目的として、最初からクロスプラットフォーム ソリューションとして設計されました。

フェン。このアプローチにより、アプリケーションがすべてのプラットフォームで動作することが保証されます。

外観と機能の点ではほとんど同じですが、

いくつかのプラットフォーム固有の調整。

プラットフォーム間の最大の違いは、アプリケーションのインストールに見られます。以下にインストール手順と

さまざまなオペレーティング システムでのソフトウェアの実行とその情報

どの側面に特に注意を払う必要があるか。

1.2.1 ウィンドウ

プログラムは基本的にクロスプラットフォーム向けに開発されましたが、

Windows プラットフォーム (Windows 10 および Windows 11) は最もよくテストされています

バージョン。アプリケーションが主に開発される場所でもあります。

1.2.1.1 インストール プログラムインストール プログラムには 2 つのバージョンがあります。最初の亜種は「BlockPDF-Setup.exe」で、管理者権限を取得しようとします。

インストールでは、コンピューターのすべてのユーザーがパスC:\Program Files\BlockPDFにアプリケーションを取得します。提供すること。 2番目

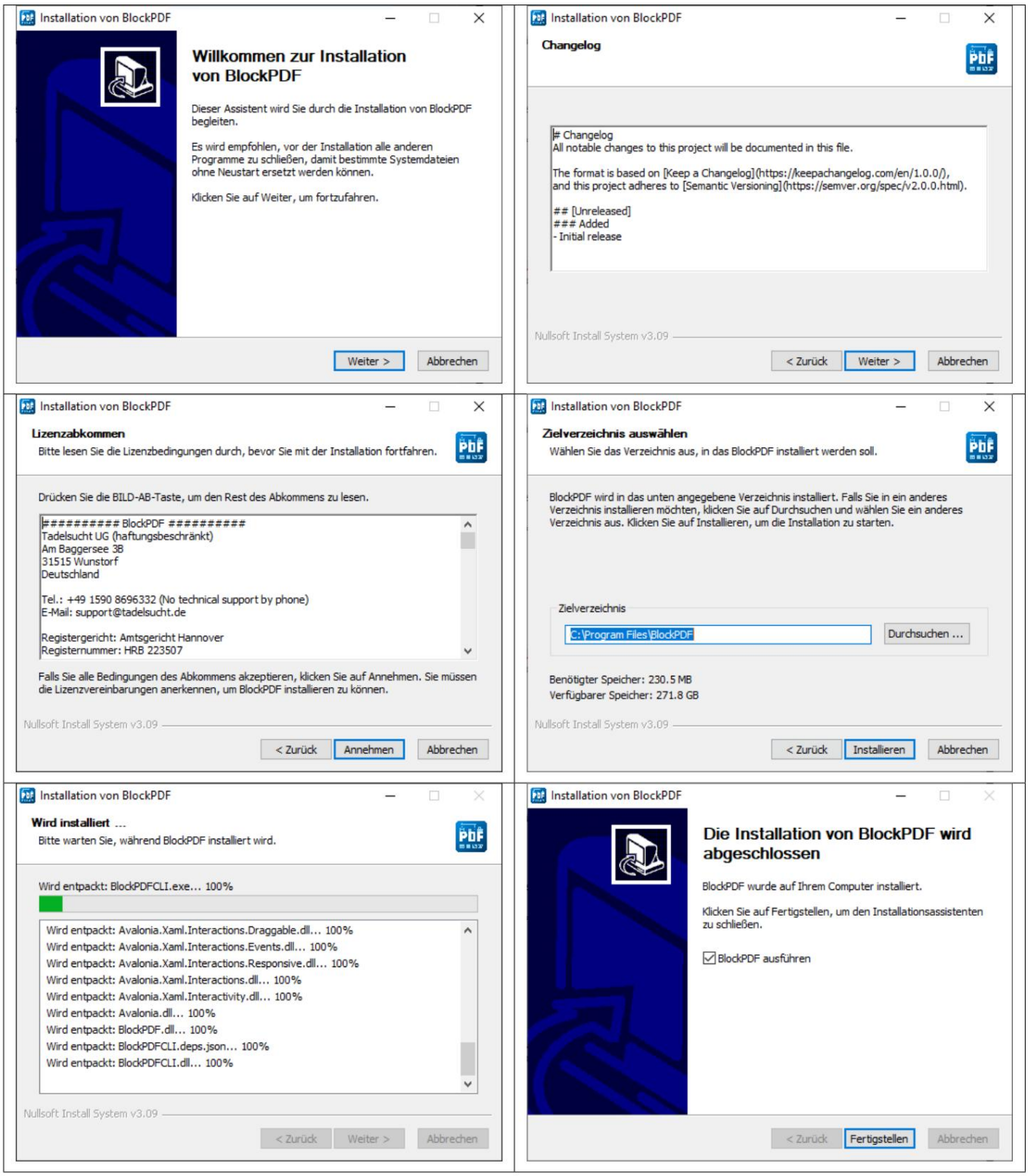
バリアントは「BlockPDF-User-Setup.exe」で、管理者権限は必要ありません。

ユーザーフォルダー(C:\Users\%USERNAME%\AppData\Roaming\BlockPDF)にコピーします。で-

がインストールされています。

インストールに必要な手順はスクリーンショットとして次のとおりです。

Machine Translated by Google



インストーラーはコンソールからも使用できます。 「/S」パラメータを使用すると、インストールを無人で実行できます。

インストール パスを設定する場合は、 /D=C:\NewInstallDir\\パラメーターを使用して行うことができます。

例 1: BlockPDF-Setup.exe /S

Machine Translated by Google

例 2: BlockPDF-User-Setup.exe /S /D=C:\\NewInstallDir\\

1.2.1.2 ZIP ファイルZIP ファイル形式のアプリケーションは、インストール プログラムを必要とせず、簡単にどこかに解凍できます。アプリケーションが開始されました
「BlockPDFUI.exe」経由。

1.2.2 MacOS

アプリケーションは古い MacBook Pro (Intel) で開発されています
MacOS バージョン Monterey および利用可能な最新の MacOS バージョンを搭載した MacBook Air (M2) でテストしました。
MacOS システムに BlockPDF をインストールするには、主に .app バージョンと ZIP ファイル バージョンの 2 つの方法があります。

1.2.2.1 .app アプリケーションBlockPDF の .app バージョンは、MacOS 上でアプリケーションをインストールして起動する最も簡単な方法です。そうしなければなりません
インターネットから .app ファイルをダウンロードし、「アプリケーション」フォルダーに移動します。 MacOS のセキュリティ設定により、アプリケーションを初めて起動するときは特にアプリケーションを開く必要があります。

1. Finder で「アプリケーション」フォルダに移動し、ブロックを見つけます。
   PDF.app。
2. BlockPDF.app を右クリック (または Ctrl キーを押しながらクリック)
   をクリックし、コンテキストメニューから「開く」を選択します。
3. アプリケーションがオフであることを通知するダイアログ ボックスが表示されます。
   インターネットからダウンロードされました。 「開く」をクリックしてアプリケーションを起動します。

この手順は、アプリケーションを初めて起動するときに必要です
認可する。これが完了すると、BlockPDF を他のアプリケーションと同様に使用できるようになります。
始められます。

1.2.2.2 ZIP ファイルあるいは、BlockPDF を ZIP ファイルとしてダウンロードすることもできます。
MacOS システム上で解凍されます。これは、
MacOS サンドボックス (ゲートキーパー) により、アプリケーションが 1 つで非表示になる可能性があります
フォルダーが異なるため、更新メカニズムが機能しません。
これは、「Finder」内でアプリケーションを一度移動することで防ぐことができます ([2] を参照)。
MacOS のシステム設定でも同様である可能性があります。
実行するには、最初に BlockPDF をアクティブ化する必要があります。解凍されたアプリケーションは、「BlockPDFUI」ファイル経由で直接起動できます。

Machine Translated by Google

1.2.3 リナックス

アプリケーションは開発中に Ubuntu 派生版についてのみテストされるため、Ubuntu ベースの Linux システムが推奨されます。 Linux ユーザーの場合、BlockPDF は ZIP ファイルとして提供されます。

1.2.3.1 ZIPファイル

1. BlockPDF Web サイトから、お使いのプロセッサーの種類に応じた ZIP ファイルをダウンロードします。
   下。

2. ZIP ファイルを選択したディレクトリに解凍します。

3. ターミナル ウィンドウを開き、アプリケーションを解凍したディレクトリに移動します。

4. BlockPDFUI ファイルがまだ実行可能でない場合は、実行可能にします
   コマンド: chmod +x BlockPDFUI を使用します。

5.ターミナルに「./BlockPDFUI」と入力してアプリケーションを起動します。

アプリケーションのすべての機能が正しく動作することを確認するために、ユーザーが書き込みアクセス権を持つディレクトリにアプリケーションを解凍することをお勧めします。特に、自動更新機能には、インストールディレクトリへの書き込みアクセスが必要です。

Machine Translated by Google

2

技術情報

アプリケーションの技術的側面の詳細な概要を以下に示します。この入門は、についての理解を深めることを目的としています。
アプリケーション内のさまざまなコンポーネントの機能、構成、統合を伝えるため。

2.1 ブロック

ブロックは、BlockPDF の中心的な要素であり、ユーザーがプログラミングの知識を必要とせずに、ユーザーフレンドリーかつ自動化された方法で、データに依存する個別の PDF ドキュメントを作成できるようにします。これ
ブロックは、ページ、テキスト、画像、
背景色、フォームフィールド、署名、バーコード、QR コード。フォント サイズ、色、文字色などのカスタマイズ可能なプロパティが多数付属しています。
ユーザーが必要に応じてドキュメントをデザインできるポジション
そしてパーソナライズします。
文書ブロックの構造は階層構造に従います。
はドキュメントから始まり、下に向かって続きます。この階層内では
同じレベルのブロックは上から下に処理されます。これは特に
特に透かしなどの要素の配置に関連します。
他のすべてのコンテンツの上に表示するには、ブロック リストの最後に配置してください

Machine Translated by Google

すべき。

もう 1 つの重要な側面は、相対的と絶対的の違いです。

ブロック。相対ブロックは、ドキュメント内の他の要素との関係で位置とサイズを動的に調整します。これは、ドキュメント レイアウト内で柔軟に流れる必要があるコンテンツに役立ちます。一方、絶対ブロックには 1 つのブロックがあります。

他の文書要素から独立した固定の位置とサイズ、

これは、ドキュメント内の特定の位置を修正する必要がある静的コンテンツにとっては利点です。

Excel、CSV、XML などのソースからデータに動的にアクセスすることで、

JSON ファイルまたはさまざまなデータベース タイプを使用して、ブロックに特定の情報を入力およびカスタマイズできます。たとえば、データ ソースからの請求書番号、請求日、顧客の住所、価格などの顧客固有のデータを自動的に含む請求書ドキュメントを作成できます。

関係します。さらに、ブロックの柔軟性により、テキストから色までの各プロパティをデータ ソースに基づいて調整できます。たとえば、テキスト要素の色を自動的に変更します。

特定の条件。これらのスキルはブロックを閉じます

現代のビジネスプロセスの要件を効果的に満たす、カスタマイズされた動的な PDF ドキュメントを作成するための強力なツール

満足する。

2.2 データソース

個別の PDF ドキュメントを作成するには、動的なデータが必要です

PDFごとに読み込むことができます。 BlockPDf はこのためのさまざまなオプションをサポートしています

PDF ファイルのデータを取得できるデータ ソースとファイル形式。これらのデータ ソースについては以下で説明します。

2.2.1 定数テキスト

n 回繰り返される定数テキストを設定できます。付属

テキストがそれぞれに単純に含まれる単一の列を持つテーブルが得られます。

行が繰り返されます。

2.2.2 日付と時刻

独自に定義した形式の日付と時刻 (

プログラムが使用されたときの現在の日付)。

2.2.3 Excelテーブル/CSVテーブル

このプログラムでは、次のスプレッドシート ファイル形式がサポートされています[4]。

Machine Translated by Google

ファイル形式	コンテナ形式	ファイル形式	Excel のバージョン
.xlsx	ZIP、CFB+ZIP	OpenXml 2007 以降	
.xlsb	郵便番号、CFB	OpenXml 2007 以降	
.xls	CFB	BIFF8	97、2000、XP、2003 98、2001、vX、2004 (Mac)
.xls	CFB	BIFF5	5.0、95
.xls	-	BIFF4	4.0
.xls	-	BIFF3	3.0
.xls	-	BIFF2	2.0、2.2
.csv	-	CSV	（全て）

たとえば、有効なテーブルは次のようになります。

ファーストネーム	姓の住所		...
ミュラー	ベルント	はるか遠くのマスター ーマン通り...	...
ドゥ•マックス			
モデル女性マリー		ドウ通り...	
...	...	...	...

スプレッドシート ファイルを別のデータ ソースとしてインポートすることもできます。この場合、列と行の動作が交換されます。たとえば、
次の表も使用できます。

名前ベルント		マックス	メアリー	...
姓 :ミュラー		ムスターマン	モデルの女性	...
住所	はるか遠く Doe Doe ストリート Doe Doe ストリート...			
...	...	...	...	...

Excel ファイルで関数を使用することは注目に値します。
がサポートされており、PDF ドキュメントに挿入する前にデータを処理および準備するための便利な方法を提供します。

2.2.4 JSON

JSON ファイル内のデータを使用するには、特定の形式を使用する必要があります
データの一部を指定する必要があります。次の JSON 構造は完全な状態になります。
BlockPDF で読み取り可能:

Machine Translated by Google


```
{
    "根"：{
      "行"：[
        {
            "姓": "ミューラー",
            "名": "ベルント",
            "住所": "はるか遠く",
            "チェックボックスの値": "はい",
            "ラジオボタンの値": "2",
            "Combobox_Value": "ケーキ"
        },
        {
            "last_name": "雌鹿",
            "名": "マックス",
            "住所": "ジョン ドゥ ストリート{\ss}e",
            "チェックボックスの値": "いいえ",
            "ラジオボタンの値": "1",
            "Combobox_Value": "テスト"
        },
        {
            "Last_name": "モデルの女性",
            "名": "マリー",
            "住所": "ジョン ドゥ ストリート{\ss}e",
            "チェックボックスの値": "はい",
            "ラジオボタンの値": "3",
            "Combobox_Value": "Cookie"
        },
        {
            "姓": "小さい",
            "名": "ベルトルト",
            "住所": "小さな道",
            "チェックボックスの値": "",
            "ラジオボタンの値": "",
            "コンボボックスの値": ""
        }
      】
    }
}
```


2.2.5 Microsoft Access

「Microsoft Access」サーバーからのデータを使用するには、いくつかのオプションがあります。
データ取得用のバリエーションも用意されています。
一方では、単にデータベースを作成するオプションを選択できます。

Machine Translated by Google

ファイル (.accdb または .mdb) と、それぞれのデータベースで使用可能なすべてのテーブルが自動的に表示されます。これらのテーブルから次のことを行うことができます
データ ソースとして機能するものを 1 つ選択できます。
2 番目のオプションは、ファイルの横に SQL クエリを入力する機能です。
これにより、必要なデータが得られます。このオプションでは、完全な
データ ソース用の Microsoft Access データベース上の SQL の機能
BlockPDF 内で使用します。

場合によっては、Microsoft Access データベース エンジン再頒布可能パッケージなど、不足している依存関係をダウンロードしてインストールすることが必要になる場合があります。

2.2.6 Microsoft SQL

Microsoft SQL Server からのデータを使用する場合のデータ取得には、いくつかのバリエーションがあります。

一方では、「接続文字列」を入力するだけで、それぞれのデータベースで使用可能なすべての接続文字列が自動的に入力されるオプションを選択できます。
テーブルが表示されます。これらのテーブルの 1 つを選択して、データ ソースとして機能させることができます。
有効な「接続文字列」の例については、「」を参照してください。
セクション9.5 を参照してください。

2 番目のオプションは、「接続文字列」の隣にあるプレーンなオプションです。
をクリックして、必要なデータを返す SQL クエリを入力します。これ
このオプションにより、Microsoft SQL 上で T-SQL のすべての機能が使用可能になります。
BlockPDF 内のデータ ソースにサーバーを使用します。

2.2.7 MySQL/MariaDB

MySQL または MariaDB サーバーからのデータの BlockPDF への統合
いくつかの方法で実装できます。

オプションの 1 つは、「接続文字列」の入力を必要とします。
関連するデータベースの使用可能なテーブルが自動的にリストされます。このリストからテーブルをデータ ソースとして選択できます。有効な「接続文字列」形式の例については、次を参照してください。

セクション9.5を参照してください。

もう 1 つの方法は、必要なデータを提供する「接続文字列」に加えて SQL クエリを直接作成することです。この方法を使用すると、MySQL または MariaDB 上のあらゆる SQL 関数を使用できます。

サーバーを使用して BlockPDF 内でデータ ソースを構成できます
エレン。

Machine Translated by Google

2.2.8 埋め込みテキストファイル

データテーブルとして解釈される埋め込みテキスト。たとえば、XML、JSON、CSV データのほか、改行で区切られたデータなども可能です。

2.2.9 XML

XML ファイル内のデータを使用するには、特定の形式を使用する必要があります。
データのマットを指定する必要があります。次の XML 構造全体を BlockPDF に読み取ることができます。

Machine Translated by Google


```
<ルート>
    <行>
        <Last_name>ミュラー</Last_name>
        <First_name>ベルント</First_name>
        <アドレス>はるか遠く</アドレス>
        <Checkbox_Value>はい</Checkbox_Value>
        <Radio_button_value>2</Radio_button_value>
        <Combobox_Value>ケーキ</Combobox_Value>
    </行>
    <行>
        <Last_name>ジョン•ドゥ</Last_name>
        <First_name>マックス</First_name>
        <住所>ジョン スミス通り{\ss}e</住所>
        <Checkbox_Value>いいえ</Checkbox_Value>
        <Radio_button_value>1</Radio_button_value>
        <Combobox_Value>テスト</Combobox_Value>
    </行>
    <行>
        <Last_name>モデル女性</Last_name>
        <First_name>マリー</First_name>
        <住所>ジョン スミス通り{\ss}e</住所>
        <Checkbox_Value>はい</Checkbox_Value>
        <Radio_button_value>3</Radio_button_value>
        <Combobox_Value>クッキー</Combobox_Value>
    </行>
    <行>
        <Last_name>小</Last_name>
        <First_name>ベルトルト</First_name>
        <住所>スモールウェイ</住所>
        <Checkbox_Value></Checkbox_Value>
        <Radio_button_value></Radio_button_value>
        <Combobox_Value></Combobox_Value>
    </行>
</root>
```


2.3 ワークフロー

BlockPDF では、体系的かつ柔軟なデータ処理を可能にするワークフローを通じてデータ ソースが使用されます。これらのワークフロー
シンプルなワークフローと高度なワークフローの 2 つの主なタイプに分けられます。
シンプルなワークフローは、以下から構成される直接的な構造によって特徴付けられます。
単一のデータ ソースと出力ノード。彼らは理想的です
データがソースから直接取得され、追加の手続きを必要としないタスクの場合

Machine Translated by Google

編集は最終文書に組み込む必要があります。
一方、高度なワークフローでは、より複雑なデータ処理を実行できる可能性があります。これらには、データのフィルタリング、並べ替えなどを可能にする複数のデータ ソース ノードと操作ノードを含めることができます。

最終的なドキュメントで使用する前に、適切な方法で編集してください。これ
このタイプのワークフローは、さまざまなソースからのデータを結合して広範囲に操作する必要がある、より要求の厳しいプロジェクトに最適です。
すべてのワークフローの機能には、次の両方が備わっていることが不可欠です。
データ ソースを定義する入力ノードと、最終成果物を生成する出力ノードがあります。この構造により、データがワークフローを通じて体系的に流れ、最終的には使用可能な形式になることが保証されます。

マットが出力されます。

2.3.1 操作ノード

操作ノードはデータ ソースと出力ノードの間にあります。
を見つけて、データに対してさまざまな操作を実行できるようにします
ソフトウェアの他の場所で使用される前に。

2.3.1.1 マージこの機能により複数の接続が可能になります
さまざまなソースからデータを受信してマージします。で
マージ ノードを使用する場合、ノードの実行順序が重要な役割を果たすことに注意することが重要です。データソースが処理される順序は、エディターでのデータ ソースの表示方法に基づきます。つまり、最上位のノードが最初に処理され、次にその下のノードが処理されます。

データ ソースの順序を変更するには、Y 軸に沿ったノードの位置をエディターで調整できます。この変更は基礎となるデータ モデルに直接反映され、データ モデルの順序が決まります。

データが結合されます。

2.3.1.2 値の置換任意の位置で固定テキストを使用できます。
データを別のデータに置き換えます。

2.3.2 出力ノード

終了ノードは常にワークフローの最後のノードです。それはからかもしれません
このノードに 1 つのみを与えると、ブロックは 1 つの接続のみを取得します。
別のブロック。

Machine Translated by Google

2.4 データ型

BlockPDF では、ブロック プロパティのデータはさまざまなデータ型で表されます。これらのデータ型については以下で説明します。

2.4.1 テキスト

テキスト データは、名前、住所、メッセージなどの情報を表すために使用される連続した文字列を表します。例:「Hello World」、「1234」。

2.4.2 整数

整数は、小数点のない数値データであり、小数点のない数値を含む整数を表すために使用されます。例: 42、

-3.

2.4.3 浮動小数点数

浮動小数点数は、小数点以下の桁数を含む数値データ (例: 3.14、 -0.001) であり、非常に小さい数値や大きい数値を含む、より広範囲の値を表すことができます。システム言語に応じて、小数点以下の桁はポイントまたはカンマで表すことができます。レイアウト固有のプロパティの場合、浮動小数点数のデフォルトの単位は「ポイント」です (参考文献[3] を参照)。

2.4.4 ブール値 (1/0、有効/無効、...)

BlockPDF はさまざまなテキスト値をブール値に自動的に変換します
その周り。変換を可能な限り柔軟にし、さまざまなユーザー入力およびデータ ソース形式を受け入れるために、さまざまな入力値がサポートされています。

2.4.4.1真としての解釈

—「×」

—「1」

- "真実"

- "の上"

—「はい」

Machine Translated by Google

— 「はい」（英語）

— 「ja」（ドイツ語、オランダ語、デンマーク語、スウェーデン語、ルーマニア語、ノルウェー語）

— 「oui」（フランス語）

— 「да」（ロシア）

— 「是」(中国語)

— 「sì」（イタリア語）

— 「シム」（ポルトガル語）

— 「はい」（エストニア語）

— 「kyllä」（フィンランド語）

— 「j」（ラトビア語）

— 「igen」（ハンガリー語）

— 「da」（スロベニア語、チェコ語、スロバキア語）

— 「tak」（ポーランド語）

— 「예」(韓国語)

— 「はい」（日本語）

— 「イヤ」（インドネシア語）

— 「エヴェト」（トルコ語）

— 「タイプ」（リトアニア語）

2.4.4.2偽としての解釈

— 「」 空間

—「0」

- "間違い"

- "オフ"

—「ん」

- "いいえ"

Machine Translated by Google

— 「いいえ」（ドイツ語）

— 「ノン」（フランス語）

— 「нет」（ロシア）

— 「不」(中国語)

— 「não」（ポルトガル語）

— 「ei」（エストニア語、フィンランド語）

— 「n」（ラトビア語）

— 「いいえ」（オランダ語）

— 「nej」（デンマーク語、スウェーデン語）

— 「ネム」（ハンガリー語）

— 「ne」（スロベニア語、チェコ語、スロバキア語、リトアニア語）

— 「決して」（ポーランド語）

— 「nu」（ルーマニア語）

— 「아니」(韓国語)

— 「いいえ」（日本語）

— 「ティダック」（インドネシア語）

— 「ネイ」（ノルウェー語）

— 「ヘイル」（トルコ語）

2.4.5 カラー(ARGB)

ARGB 形式のカラー コード (アルファ、赤、緑、青) により、ドキュメント内のグラフィック要素の色の正確な指定が可能になります。例: #FF5733 の場合
強いオレンジ、#00FF00 は純粋な緑です。

2.4.6 ファイルパスまたはバイナリファイル(Base64)

ファイル パスまたは Base64 形式のバイナリ データの指定を許可します
画像やドキュメントなどの外部リソースを PDF に統合します。
例: 「C:/Documents/Image.jpg」または Base64 でエンコードされたファイル。

Machine Translated by Google

2.4.7 ページ形式

ページ形式は、A4 やレターなど、ドキュメント内のページのサイズと方向を定義します。これは、レイアウト デザインに不可欠です。

2.4.8 フォントの太さ

フォントの太さ (太字、標準など) によって、視覚的な太さと強調が決まります。
読みやすさとテキストのデザインを改善するためのテキストの編集。

2.4.9 水平方向の位置合わせ

水平方向の配置 (左、中央、右) は、ページの水平軸上の要素の配置を制御して、レイアウトを構造化します。

2.4.10 垂直方向の位置合わせ

垂直方向の配置 (上、中央、下) によって、
ページの縦軸に沿って要素を配置し、バランスのとれたページ デザインを実現します。

2.4.11 画像のスケーリング

画像のスケーリングを使用すると、画像サイズを利用可能なサイズに調整できます。
最適な表示とドキュメント レイアウトへの統合のためのスペース
確実にするために。

2.4.12 インライン整列

インライン配置は、テキスト フロー内の要素の配置を制御します。
これはテキストコンテンツの微細構造化にとって重要です。

2.4.13 テキストの配置

テキストの配置（太字、標準など)は外観に影響を与え、
読みやすさと美しさを最適化するためのテキストブロックの構造。

2.4.14 テキストの方向

LTR (左から右) や RTL (右から左) などのテキストの配置 (方向) は、さまざまな言語でテキストを正しく表示するために重要です。

Machine Translated by Google

3

クイックスタートと例

基本的な概念は、簡単な紹介と例示的なアプリケーションの形で以下に示されています。

3.1 行と列を含むレイアウト

やるべきこと

3.2 複雑な文書の構造化

やるべきこと

3.3 文書例: 請求書

やるべきこと

Machine Translated by Google

4

ユーザーインターフェイスの詳細(UI)

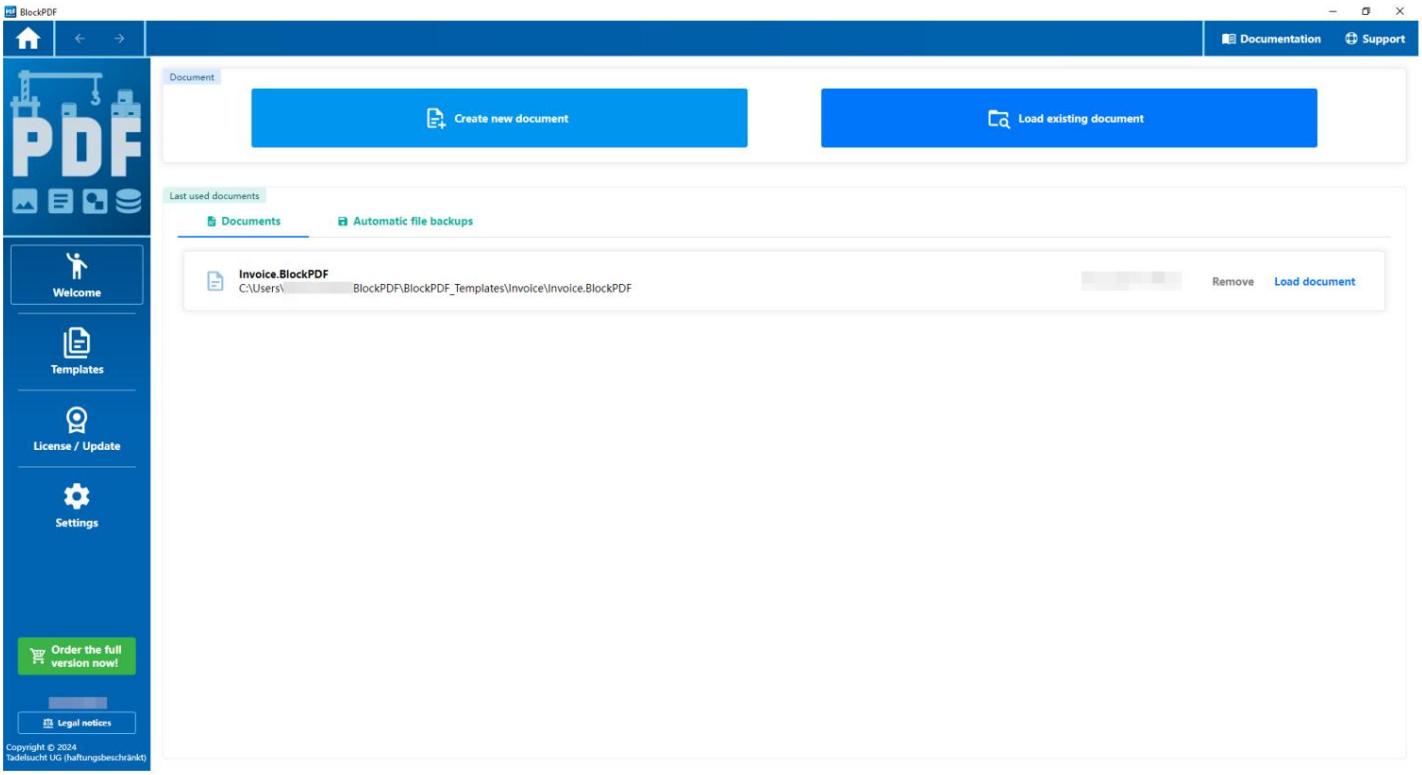
以下では、ユーザー インターフェイスのすべてのコンポーネントを包括的に検討します。
個々の要素に関する追加の関連情報が含まれます。

4.1 ホームページ

プログラムを開始すると、ホームページが表示され、以下で詳しく説明する限られたサブページへのアクセスが提供されます。デフォルトでは、ウェルカム ページは起動時に最初に表示されるページです。上部のバーには家のシンボルがあり、いつでもホーム ページに戻ることができます。ファンクションバーの矢印記号の意味については、セクション4.2.1で説明されています。さらに、ドキュメント ウィンドウ (4.1.5 を参照)およびサポート ウィンドウ (4.1.4 を参照) を開くボタンがあります。

Machine Translated by Google

4.1.1 ようこそ

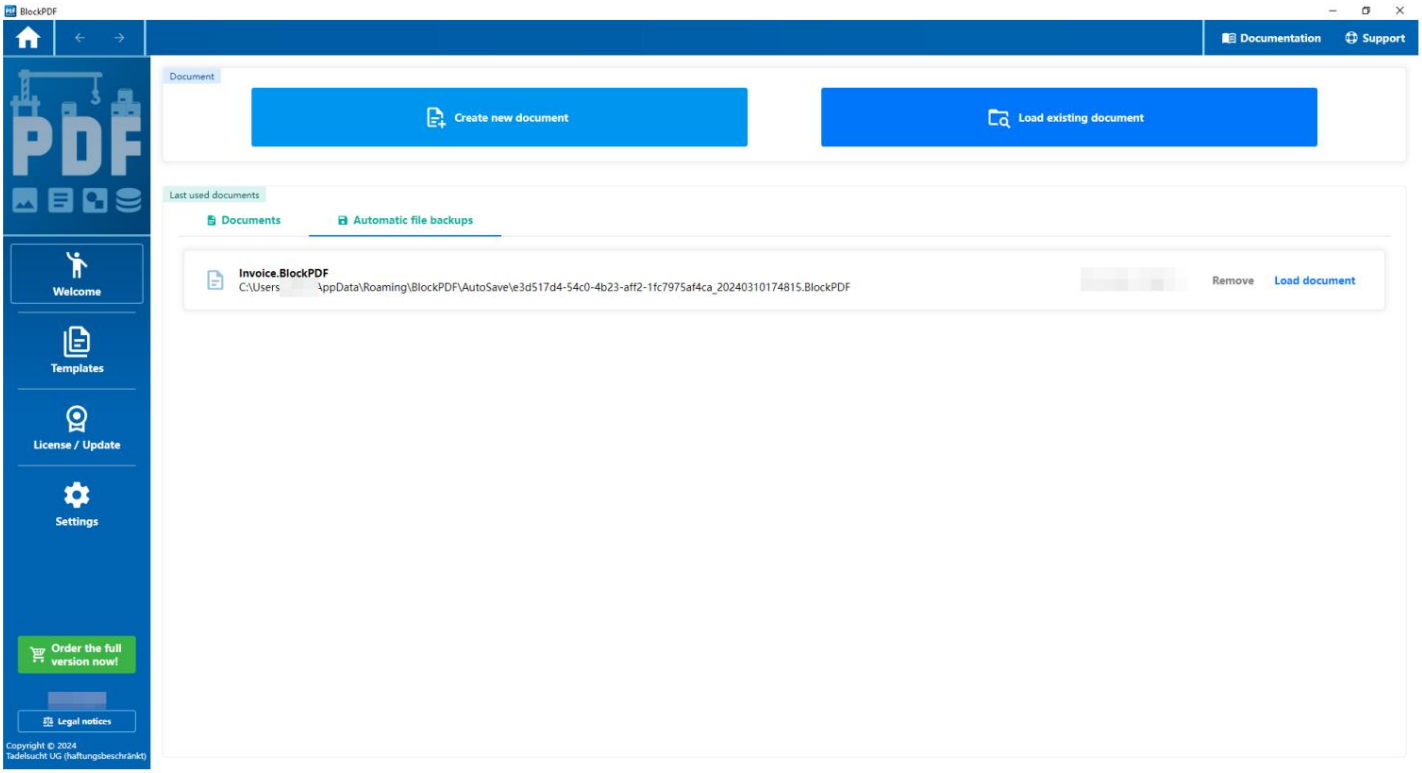


ホームページ

ようこそページではドキュメント領域にアクセスでき、ユーザーは新しいドキュメントを作成するか、既存のドキュメントをロードするかを選択できます。

ロード用にサポートされているファイル形式には、.BlockPDF、.BlockPDF.zip テンプレート、および PDF ファイルが含まれており、PDF は編集用に適切に変換されます (詳細については、セクション 9.1 を参照)。この領域の下に、最近使用したファイルのリストが表示され、再ロードすることも、リストから削除することもできます。

Machine Translated by Google

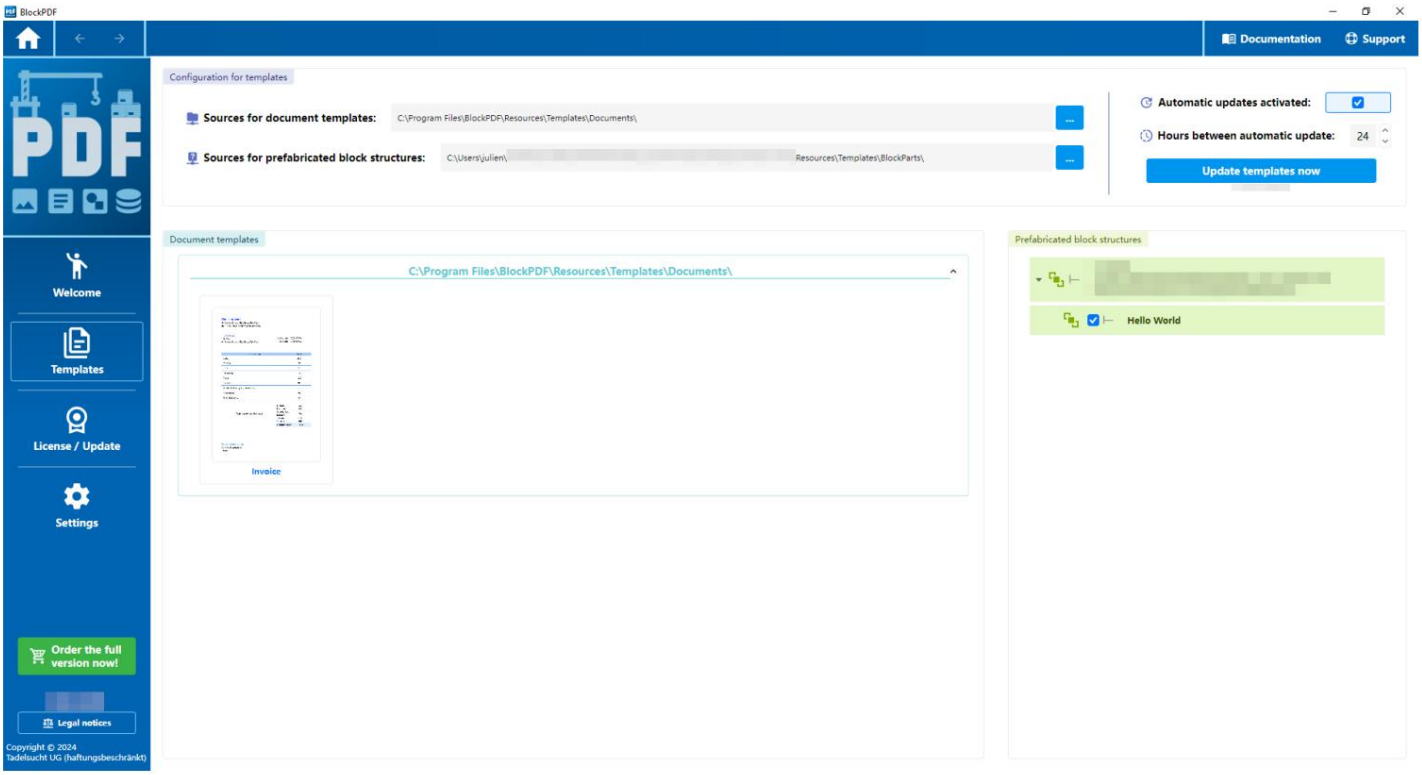


ホーム - 自動ファイルバックアップが選択されました

自動ファイル バックアップ セクションには、設定で定義された時間間隔に従って自動的にバックアップされるファイルがリストされます。
となった。

Machine Translated by Google

4.1.2 テンプレート



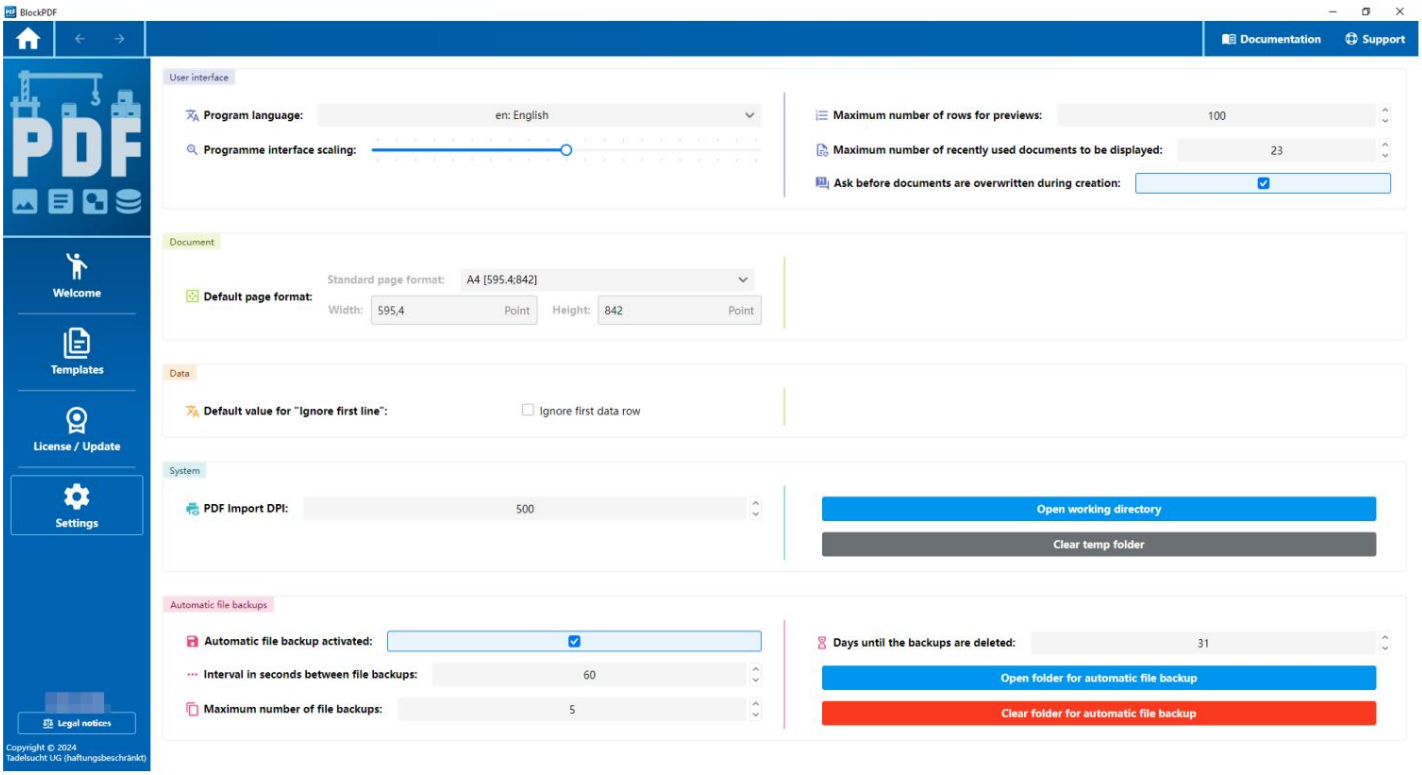
ホーム - テンプレート

テンプレート ページでは、さまざまなソースからのテンプレートとブロック構造へのアクセスが提供され、上のテキスト フィールドを使用して指定できます。ソースと特定のテンプレートの詳細については、セクション7.2で説明します。 [テンプレートを今すぐ更新] ボタンを使用してソースの更新を手動で開始すると、最新のコンテンツが確実に取得されます。あるいは、このオプションが有効になっている場合は、設定で指定された間隔で自動更新が行われます。

テンプレートとブロック構造はソースに従って明確に編成されており、わかりやすくするために折りたたむことができます。ドキュメントの作成時にブロック ツールボックスで使用するために、個々のブロック構造を個別にアクティブ化または非アクティブ化することができます。

Machine Translated by Google

4.1.3 設定



ホーム - 設定

設定はカテゴリに分類されており、それについては以下で説明します。

は次のようになります:

4.1.3.1 ユーザーインターフェース

—プログラム言語:ユーザー インターフェイスの言語をここで設定できます。
置かれる。

—プログラム インターフェイスのスケーリング:ここでは、スライダーを使用してユーザー
インターフェイスのスケーリングを調整できます。

—プレビューの最大行数:これにより、プレビューの最大行数が決まります。
プレビューに表示できる行数は最大です。デフォルト値は 100 です。

—最近使用したドキュメントの最大数:ここで決定できます。
表示される最近使用したドキュメントの最大数
すべき。デフォルト値は 23 です。

—作成中にドキュメントが上書きされる前に確認します。
このオプションはデフォルトで有効になっており、ドキュメントが上書きされる前に確認が得られます。

Machine Translated by Google

4.1.3.2 文書

—標準ページ形式:ここでページの形式を選択できます。
の。デフォルトの形式は A4 です。

4.1.3.3 データ

— 「最初の行を無視」のデフォルト値:データ ファイルの最初の行をヘッダーとして扱い、PDF ドキュメントの作成に使用しないかどうかを設定できます。

4.1.3.4 システム

— PDF インポート DPI: PDF がインポートされるポイント密度 (DPI) を設定します。デフォルト値は 500 DPI です。

—作業ディレクトリを開く:現在の作業ディレクトリが開きます。
プロジェクト データと設定が保存されている場所を開きます。

—一時フォルダーの削除:このオプションを使用すると、一時データが保存されている一時フォルダーを空にすることができます。

4.1.3.5 ファイルの自動バックアップ

—自動ファイルバックアップが有効:このオプションはデフォルトで有効になっています。
ファイルの自動バックアップを有効にし、確実に実行します。

—ファイル バックアップ間の間隔 (秒):自動ファイル バックアップの間隔をここで設定できます。デフォルト値は次のとおりです
60秒。

—ファイル バックアップの最大数:保持するファイル バックアップの最大数をここで設定できます。デフォルト値は 5 です。

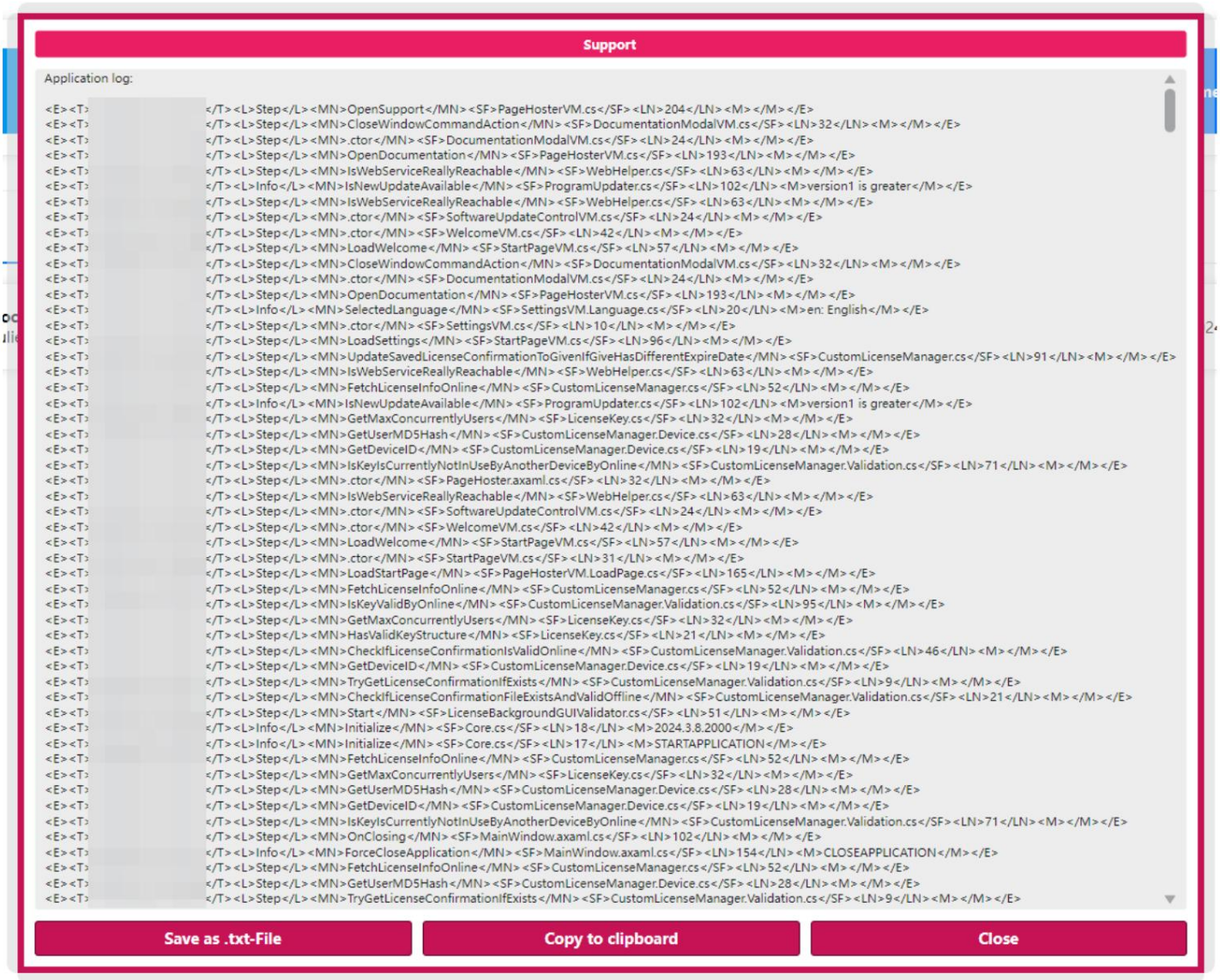
—バックアップが削除されるまでの日数:バックアップが削除されるまでの残り日数が表示されます。この例では 31 日です。

—自動ファイル バックアップ フォルダーを開く:ボタン 1 つでこれを実行できます。
自動バックアップが保存されているディレクトリを開きます
なる。

—自動ファイル バックアップ フォルダーを空にする:自動バックアップを含むディレクトリを空にするボタン。

Machine Translated by Google

4.1.4 サポート窓口

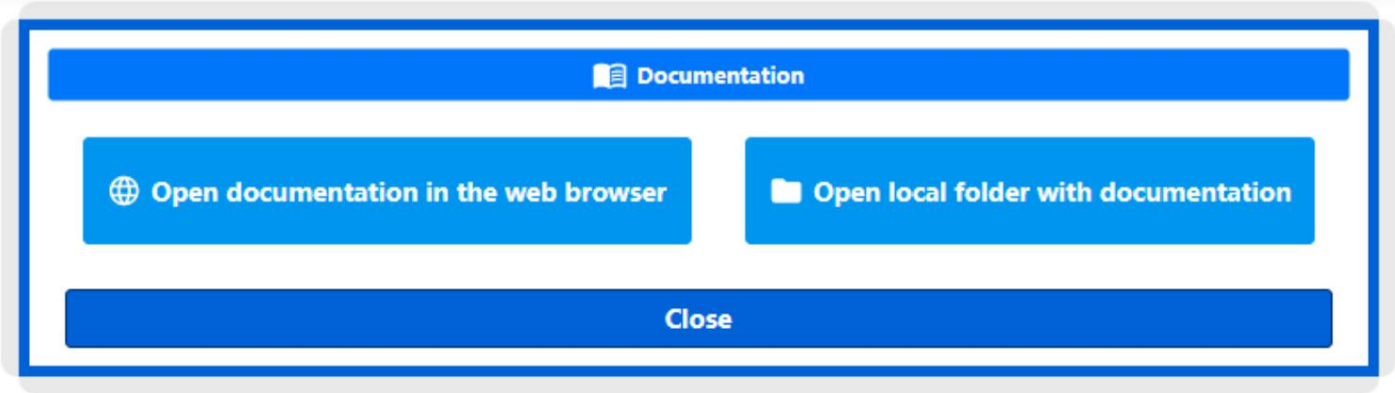


サポート窓口

サポート ウィンドウには、問題解決を迅速化するため、または問題解決を最初から可能にするために、サポート ポートへの電子メールに関連する情報が表示されます。使用されたプログラム パスとプログラム ログの最後の n,000 行が含まれます。

Machine Translated by Google

4.1.5 ドキュメントウィンドウ

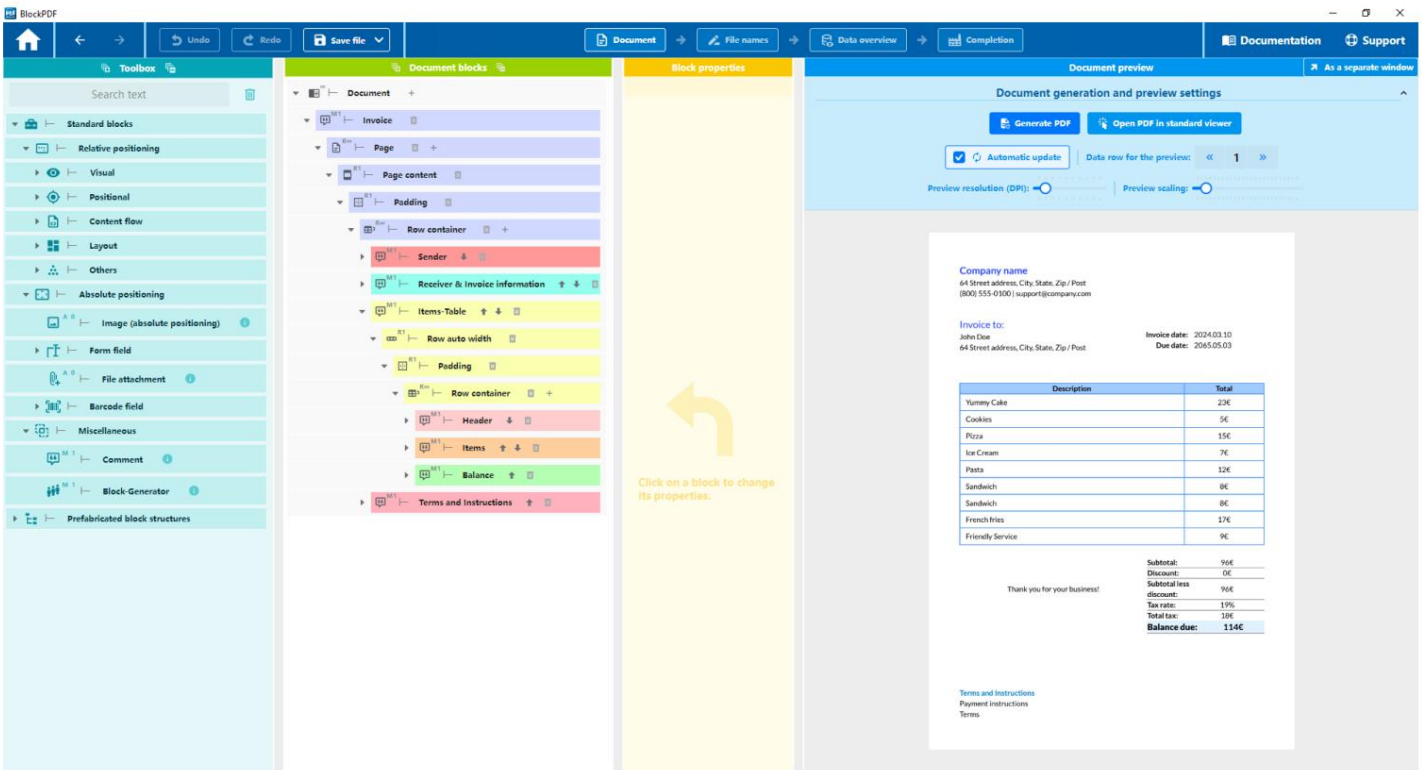


ドキュメントウィンドウ

ドキュメント ウィンドウを使用すると、ドキュメントの最新バージョンを直接表示できます。

Web ブラウザまたはローカル フォルダに、
ドキュメント。

4.2 文書



ドキュメントページ

Machine Translated by Google

この図は、ドキュメントを編集できるアプリケーションのユーザー インターフェイスを示しています。次に、機能の概要を説明します。

ページの上部およびページのさまざまな領域にある Sbar

自分自身に与えられた。

4.2.1 ファンクションバー

機能バーには最初は矢印記号が表示されており、これを使用して前の項目にすばやく移動できます。
ページを移動できます。丸い矢印もありますが、
ドキュメントに加えた変更を元に戻せるようにする
または再度実行すること。次のストレージ オプションは、次のボタンから利用できます。

—保存:ドキュメントを最後に保存した場所に保存します。最終的な保存場所がまだない場合は、ファイルを保存する場所を尋ねられます。

—名前を付けて保存...:ドキュメントの保存場所を選択するためのダイアログが開きます。確保する必要があります。

—テンプレートとして保存...:ドキュメントの保存先を選択するダイアログが開きます。テンプレートとして保存する必要があります。テンプレートのファイル拡張子は .BlockPDF.zip で、ドキュメントとドキュメント内で参照されているすべてのファイルが含まれています。たとえば、データソースとして使用される Excel ファイルはテンプレート ファイルに含まれます。

最後に、このビューは、ドキュメントを作成するために段階的に編集できるアプリケーションの追加ページへのアクセスを提供します。

4.2.2 ツールボックス

「ツールボックス」セクションには、利用可能なすべてのツールのカテゴリ別リストが表示されます。
ドキュメントデザイン用のブロック。これらの多用途ブロックは次の方法で作成できます。
ドキュメント ブロック セクションのブロック階層にドラッグ アンド ドロップを統合します。ブロックが階層に正常に挿入されるのは、次の場合のみです。
隣接するブロックと互換性があります。

4.2.3 ドキュメントブロック（ブロック階層）

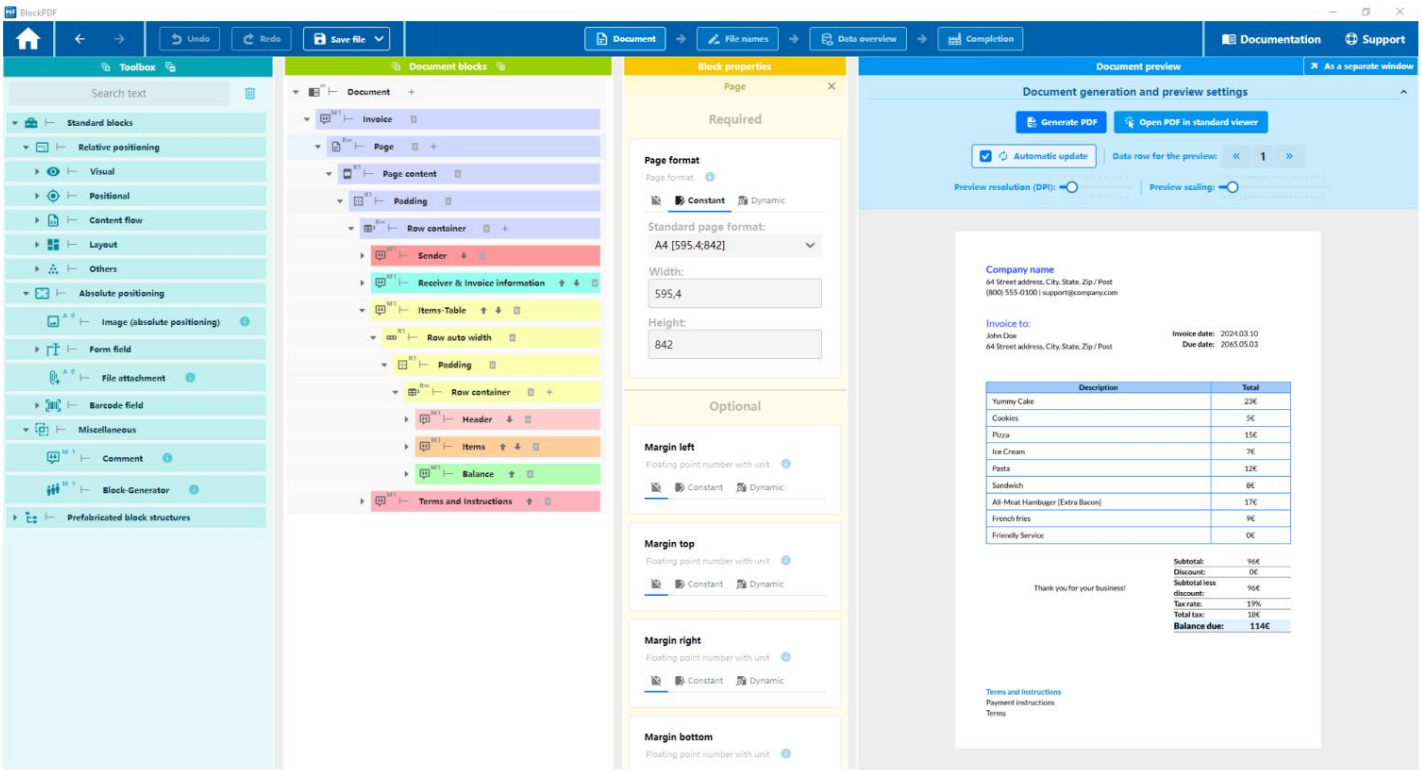
このセクションでは、文書ブロックを開始点とし、文書の説明に関連するすべてのブロックを含むブロック階層を視覚化します。ブロック

Machine Translated by Google

ドラッグ アンド ドロップまたはコンテキスト メニュー (右クリック) を使用して、この階層内で位置を変更できます。階層内の各エントリには特定のコントロールがあります。同じレベルに複数のブロックがある場合、並べ替え矢印を使用するとブロックを簡単に配置できます。ゴミ箱のシンボルで表される削除機能を使用すると、ゴミ箱を削除できます。

個別にブロックするか、すべての下位ブロックを含めます。プラスボタン
現在のブロックの下に新しい互換性のあるブロックを追加するために使用されます。
ステータス インジケーターは、個々のブロックの状態の概要を示します: 赤
矢印はエラーのあるブロックへのパスを示し、赤い点滅で示されます。
ハイライトされたアイコンは通常、データの問題が原因で発生します
ブロックプロパティ。黄色の警告記号は、必要なものが欠落していることを示します
プロパティ。青色のデータベース シンボルは、
使用されるワークフローからの動的データをブロックします。

4.2.4 ブロックのプロパティ

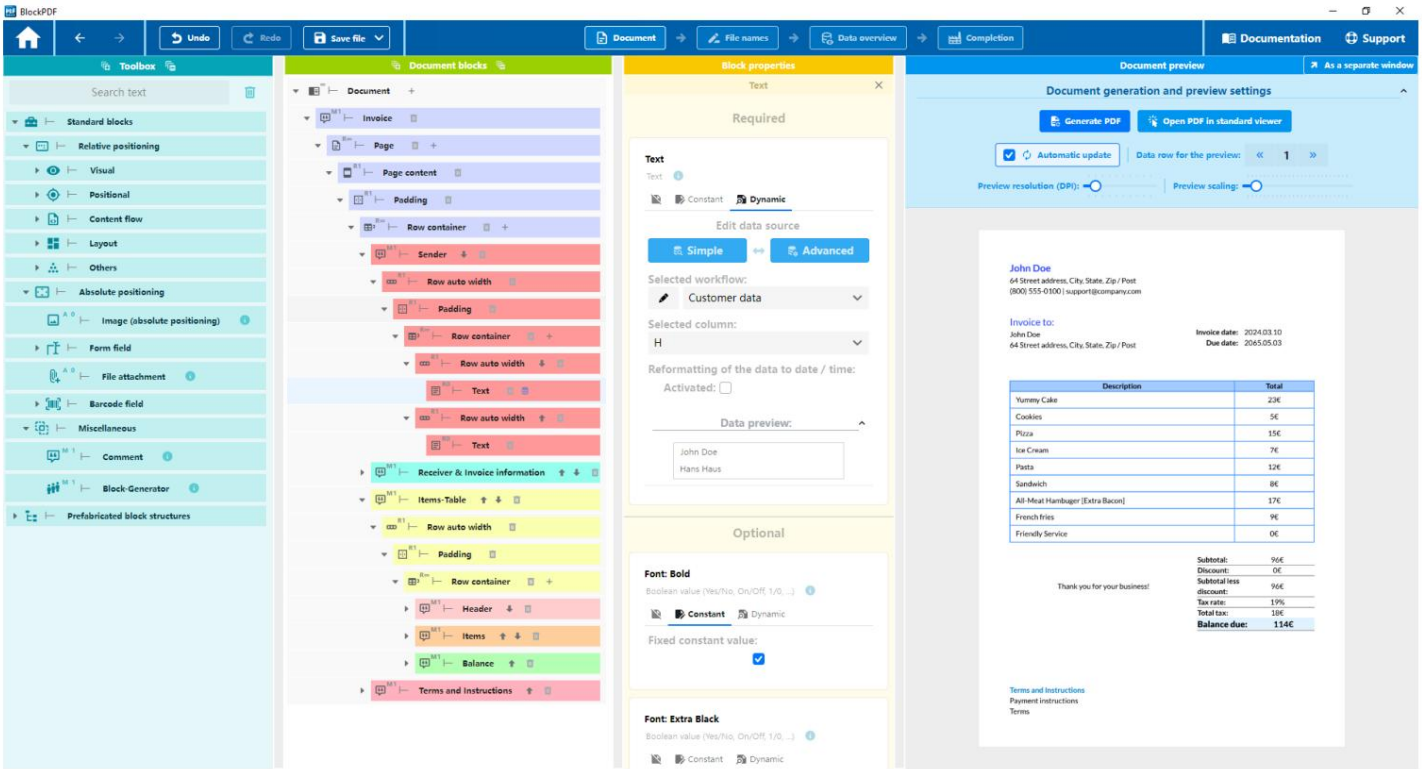


ドキュメント ページ - ブロックが選択されました

ドキュメントブロック内のブロックを選択した後（ブロック階層）
選択したブロックに関連するすべてのプロパティが [ブロック プロパティ] セクションに表示されます。これらのプロパティは、必須とオプションの 2 つの主なカテゴリに分類されます。必須プロパティは必須である必要があります

Machine Translated by Google

ブロックを正しく表示できるようにするには、定義する必要があります。一方、オプションのプロパティでは、明示的な値の割り当ては必ずしも必要ありません。
デフォルト値を使用するか、値が設定されていない何も使用しません。
影響があります。各プロパティの名前、データ型、および
現在の設定値が表示されます。データが指定されていない場合は、
取り消し線のページアイコンを選択します。定数データの場合
が選択されている場合、選択肢で「定数」が選択され、データ型に対して値を設定するインターフェースが表示されます。



ドキュメント - 動的データが選択されたブロック

ワークフローから動的データを選択する場合、動的オプションが選択されます
選択バーでアクティブ化されます。この選択範囲内でボタンを使用できます

新しいワークフローを作成したり、現在のワークフローを編集したりできます。編集は、[シンプル] ボタン (詳細についてはセクション4.5を参照) または [詳細] ボタン (セクション 4.5 を参照) を使用して行うことができます。

セクション4.6) 。これらのオプションの下にメニューがあります。
使用するワークフローを選択できます。その隣のボタン
ワークフロー名を変更できます。以下はその選択です
特定のプロパティのデータ ソース。データに日付情報が含まれている場合は、変換オプションを使用して特定の日付形式に変換できます。ついに有効になりました

展開ボタンにより、ワークフローから選択されたものがプレビューされます

Machine Translated by Google

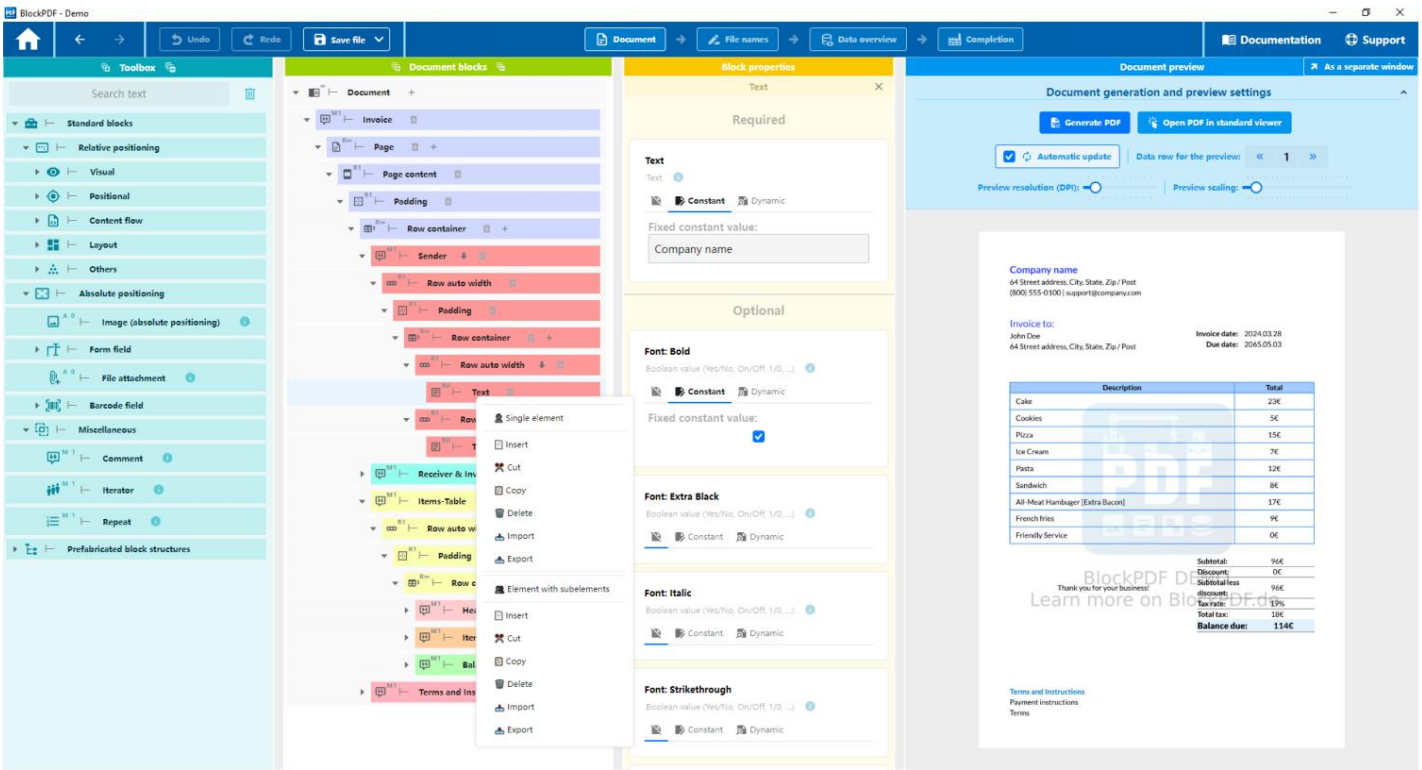
データ。

4.2.5 ドキュメントをプレビューする

このセクションでは、作成される PDF ドキュメントをプレビューできます。ユーザーはこのプレビューを手動で生成するオプションがあります
または、標準の PDF ビューアで直接開きます。機能を有効にすることで
自動更新は、ブロック階層またはブロック プロパティへの変更後にプレビューを自動的に更新します。さらに、

特定のデータセットをプレビュー用に選択できます。それも存在します
プレビュー解像度 (DPI) とそのスケーリングを調整するオプション、
これにより、特に低速なコンピューターでのプレビューの読み込みが高速化されます。特に使用時に最適化された作業環境のために
複数の画面がある場合は、[別ウィンドウとして] ボタンを使用してプレビュー領域全体を独立したウィンドウに移動でき、ドキュメントの作成プロセスを高速化できます。

4.2.6 ブロックコンテキストメニュー（右クリック）



ドキュメント - ブロックのコンテキスト メニュー (右クリック)

この図は、コンテキスト メニューを右クリックして開くことができるコンテキスト メニューを示しています。
ブロックが開きます。以下にさまざまな操作について説明します。

Machine Translated by Google

このメニューから実行できます。これらの操作は、ブロック階層がその後もまだ有効な状態にある場合にのみ実行されることに注意することが重要です。これは、操作を実行する前に、新しい構造内のブロックがどこでも相互に互換性があることをチェックすることで保証されます。

単一要素:

—貼り付け:サブ要素を持つブロックか持たないブロックがクリップボードにあるかどうかに関係なく、単一のブロックを挿入します。

—コピー :右クリックが実行されたブロックのみをコピーします。

—削除:個々のブロックのみを削除します。

—インポート: .BlockPDFPart ファイルからブロックをインポートできます。文書に。

—エクスポート:選択したブロックをエクスポートして、別のドキュメントを .BlockPDFPart ファイルに追加します。

サブ要素を持つ要素:

—挿入:すべてのサブ要素を含むブロックを挿入できます。メント。

—コピー:すべてのサブ要素を含むブロックをコピーします。

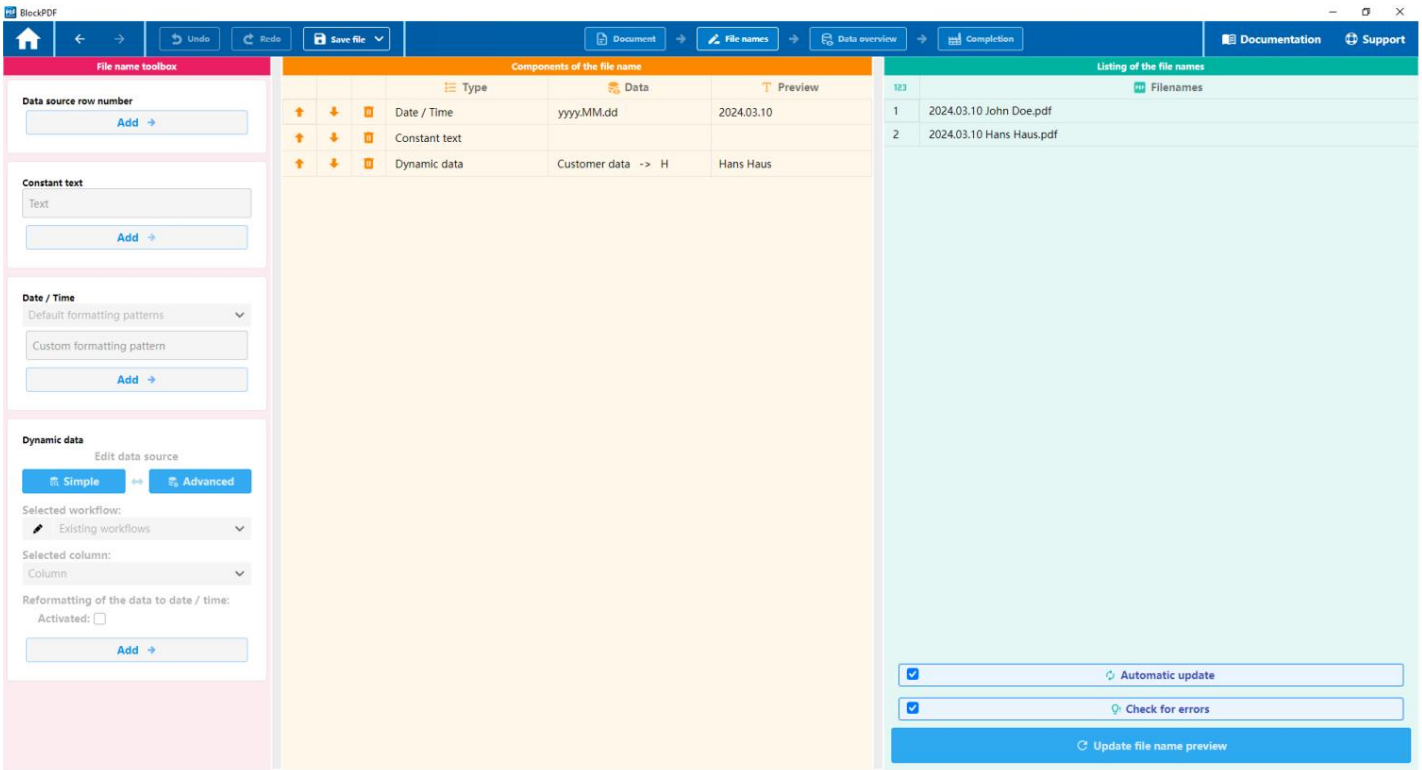
—削除:ブロックとそのすべてのサブ要素をブロックから削除します。書類。

—インポート: .BlockPDFPart からサブ要素を持つブロックをロードします。現在のドキュメント内のファイル。

—エクスポート:ブロックとそのすべてのサブ要素を .BlockPDFPart にエクスポートします。他のドキュメントで使用できるファイル。

Machine Translated by Google

4.3 ファイル名



ファイル名ページ

PDF ドキュメントのファイル名の生成は、このページで設定できます。

4.3.1 ファイル名ツールボックス

ツールボックス グループには、ファイル名にコンポーネントとして追加できる要素がいくつかあります。

4.3.1.1 データ ソースの行番号データの現在の行番号をファイル名コンポーネントとして追加します。

4.3.1.2 定数テキストファイル名コンポーネントとして定数テキストを追加します。たとえば、スペースバー（「」）を区切り文字としてファイル名に追加できます。

4.3.1.3 日付/時刻現在の日付を任意の形式で挿入します。
ファイル名に追加されます。

4.3.1.4 動的データファイル名に動的データを追加します。

Machine Translated by Google

4.3.2 ファイル名の構成要素

ファイル名のすべてのコンポーネントがここに表示されます。個々のコンポーネントのタイプ、データの表現、およびコンポーネントのプレビューが表示されます。順序はファイル名の生成に関係します。これは、左側の矢印を使用して変更できます。ファイル名の一部は、ゴミ箱マークを使用して削除することもできます。

4.3.3 ファイル名一覧

すべてのファイル名のプレビューがここに表示されます。

4.3.3.1 自動更新ファイル名の構成要素が変更された直後に、アプリケーションがプレビューを更新する機能です。

チュアル化する。

4.3.3.2 エラーのチェック当社のソフトウェアは、実行しているオペレーティング システムに基づいて、入力したファイル名の有効性を自動的にチェックします。

有効なファイル名を選択するためのガイドラインをいくつか示します。

すべてのオペレーティング システムの一般規則:

— ファイル名を空にすることはできません。

— ファイル名の最大長は 255 文字です。

Windows 固有のルール:

— ファイル名には次の文字を使用しないでください: <、>、
:、"、/、\、|、?、 。

— 次の予約名は、完全なファイル名として使用することはできません (大文字と小文字が異なっていても)。

演習): CON、 PRN、 AUX、 NUL、 COM1 〜 COM9、 LPT1 〜 LPT9。

— ファイル名をスペースまたはピリオドで終わらせることはできません。

Linux と macOS の特定のルール:

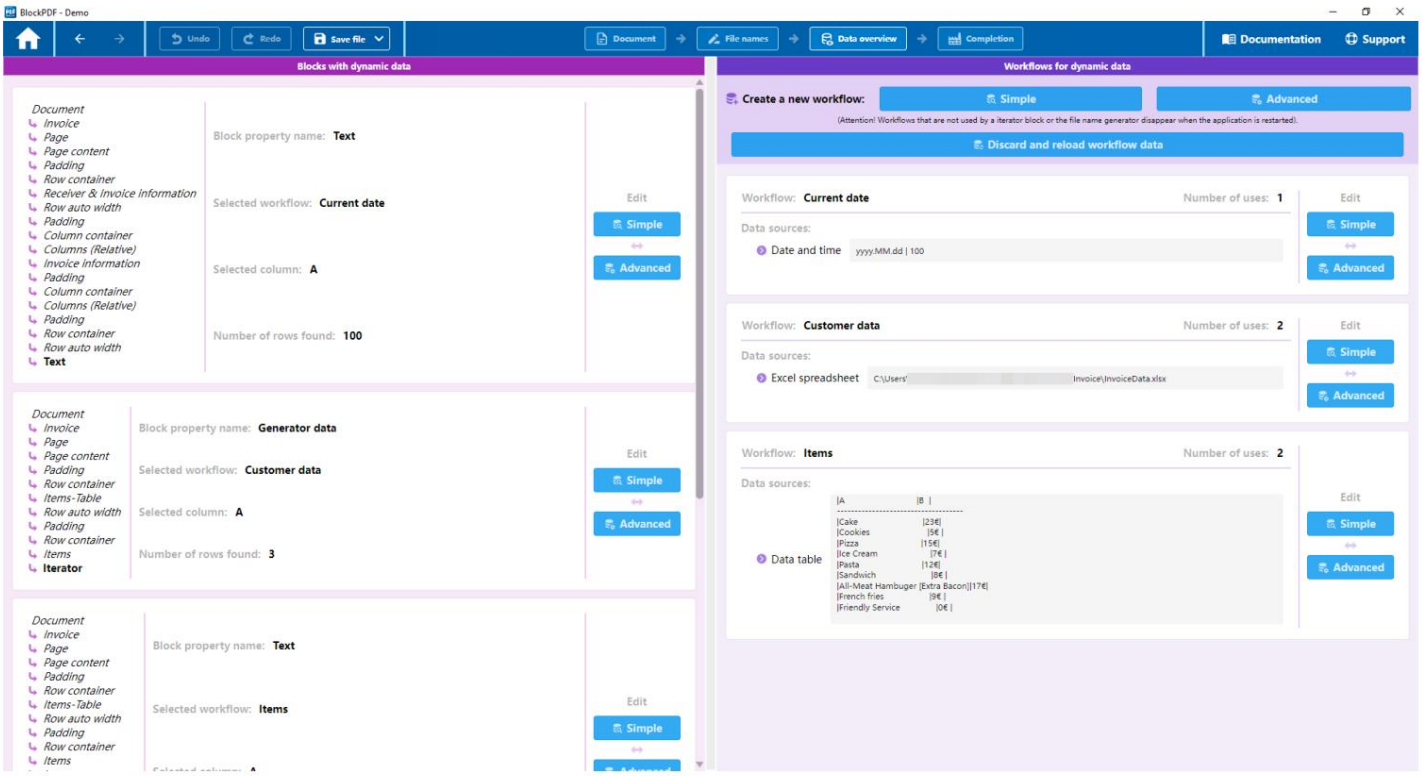
— ファイル名には、文字 / またはヌル文字 \0 を含めることはできません。

macOS の追加ルール:

— ファイル名は標準の Unicode 表現に対応している必要があります。これ
標準以外の形式で入力された特殊文字または記号は問題を引き起こす可能性があることを意味します。このような文字を避けるか、正しく表示されるか確認することをお勧めします。

Machine Translated by Google

4.4 データの概要



データ概要ページ

このページには、ドキュメントで使用される動的データ、関連するワークフロー、および使用されるデータ ソースの全体的な表現が表示されます。

4.4.1 動的データを含むブロック

このセクションでは、個々のブロック内の動的データのアプリケーションをリストします。
の上。動的データを統合するブロックまでの階層
左側に表示されます。さらに、特定のブロックのプロパティ、割り当てられたワークフロー、選択されたデータ列など
の詳細
データレコードのサイズも行数の形式で表示されます。の調整
ワークフローは、右側のボタンを使用してアクティブ化できます。
アドバンストまたはアドバンスト。

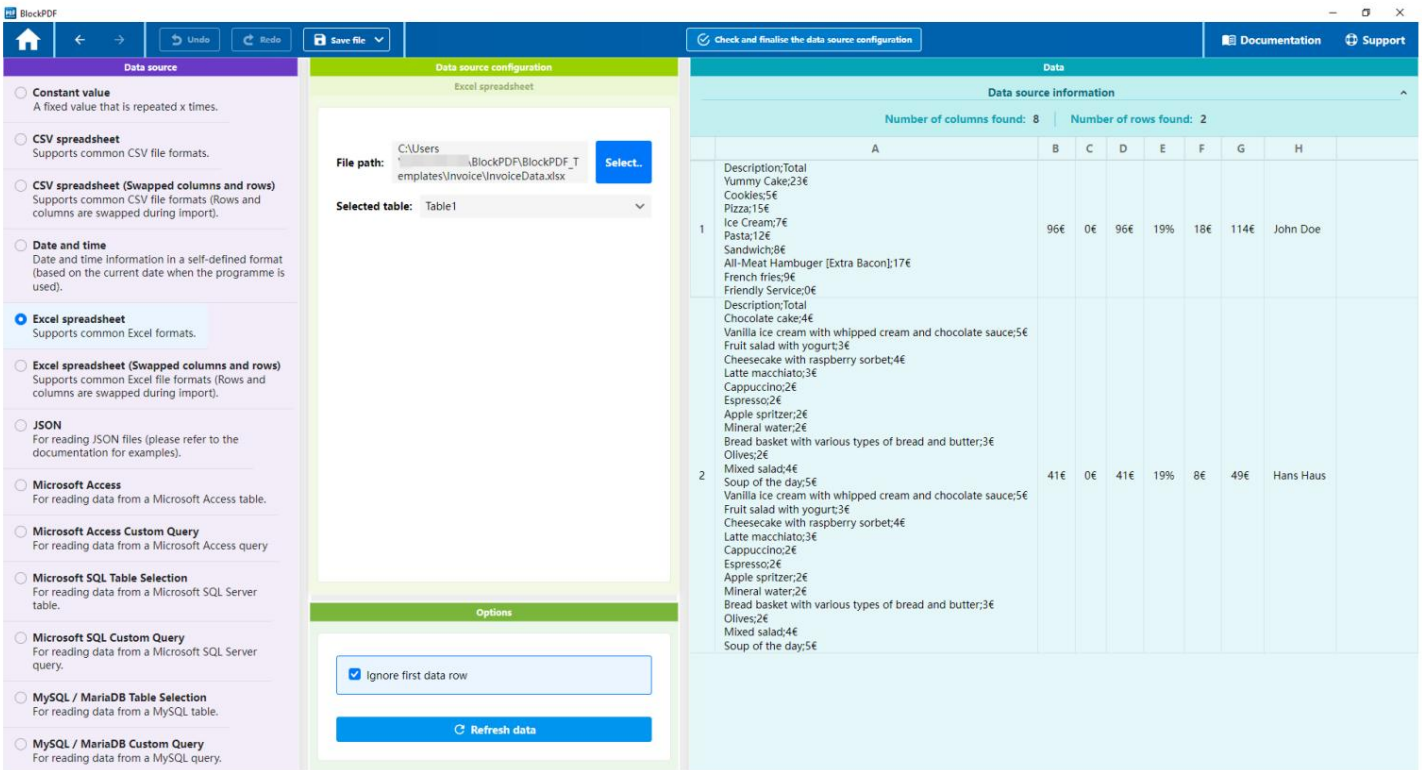
4.4.2 動的データのワークフロー

この部分では、すべてのワークフローが名前と番号とともにリストされます。
それらの用途とデータ ソース (入力ノード) の概要。さらに、それぞれの設定や

Machine Translated by Google

データはご自身でご提供いただきます。右側のボタンを使用すると、シンプル モードまたは詳細モードでワークフローをカスタマイズできます。すべき
ワークフローがドキュメントに適用されない場合は、オプションがドキュメントに追加されます
削除が表示されます。リストの上には定義する関数があります
新しいワークフロー。現在のワークフロー データをすべて破棄して再ロードするオプションもあります。この機能はこんなときに便利です
たとえば、並行して編集されていた Excel ファイルに変更が加えられ、更新されたデータを BlockPDF に転送する必要があるとします。

4.5 シンプルなワークフローエディター



シンプルなワークフローエディター

簡素化されたワークフローエディターにより、最小限の構成でワークフローエディターを作成できます
単一のデータ ソースを選択してワークフローを作成します。より複雑なワークフローとは対照的に、この方法で構成されたワークフローは単純なベースに基づいています。
2 つのコンポーネント: 入力ノード、この場合は Excel ファイル、
そして出力ノード。

4.5.1 データソース

シンプルなワークフローのデータ ソースの種類をここで選択できます。

Machine Translated by Google

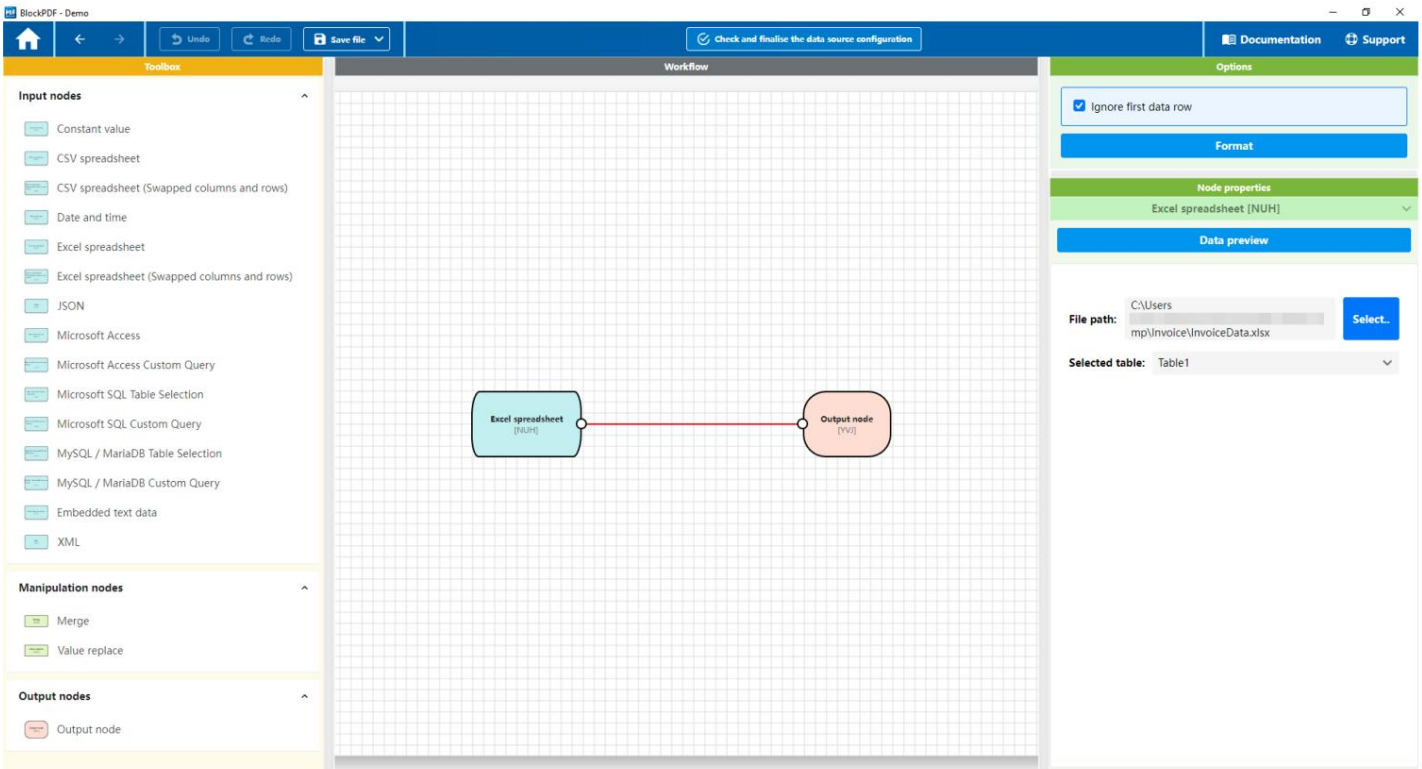
4.5.2 データソースの構成/オプション

このセクションには、選択したデータ ソースの特定の構成が含まれます
可能。さらに、オプション領域では、
データ ソースのタイプによって、最初の行をヘッダーとして無視するかどうかが決まります。データプレビューを手動で更新する機能もあります。
アリゼ。

4.5.3 データ

この領域には、データ ソースから取得したデータのプレビューが表示されます。データそのものだけでなく、詳細情報も含まれます
使用可能な列と行の数。

4.6 高度なワークフローエディター



高度なワークフローエディター

高度なワークフロー エディターは、ワークフローを視覚化します。
実際のプログラミングにより近いものを表し、広範な構成オプションを提供します。ワークフロー内の

このアプリケーションは、3 つの異なるタイプのノードで構成されます。
セット：

Machine Translated by Google

—入力ノード:これらのノードはデータのソースとして機能し、Excel ファイル、SQL サーバーなどのさまざまな形式をとることができます。
等

—操作ノード:これらのノードはデータの処理を担当します。
データ ストリームの結合や、
値を置き換えます。

—出力ノード:ワークフロー内で使用できるのはこのノードからのみです
一つは存在する。データ フローとハンドオーバーの終了を示します。
さらなる使用のために処理されたデータ。

ノードを相互に接続して、データ処理パスを決定できます。データは常にノードの開始点から流れます

別のエントリ ポイントの右側にあるアンカー ポイントで認識できます。
ノードは左側にあります。
注:接続を直接選択できない場合は、接続を移動します
関連するノードの 1 つを簡単に選択するだけです。結果の対角線
走行ストロークを選択しやすくなりました。

4.6.1 ツールボックス

ツールボックスには、ワークフローの作成に使用できるすべてのノード タイプが含まれています。ノードをワークフロー領域にドラッグ アンド ドロップして、プロセスの一部にすることができます。

4.6.2 ワークフロー

この中央領域には、現在のワークフローとそのすべてのノードが表示されます。

それらの間のつながりが視覚化されます。ワークフローは対話的に編集できます。ノードと接続は、ドラッグ アンド ドロップ (コンテキスト メニュー/右クリック) によって追加、再リンク、または削除できます。

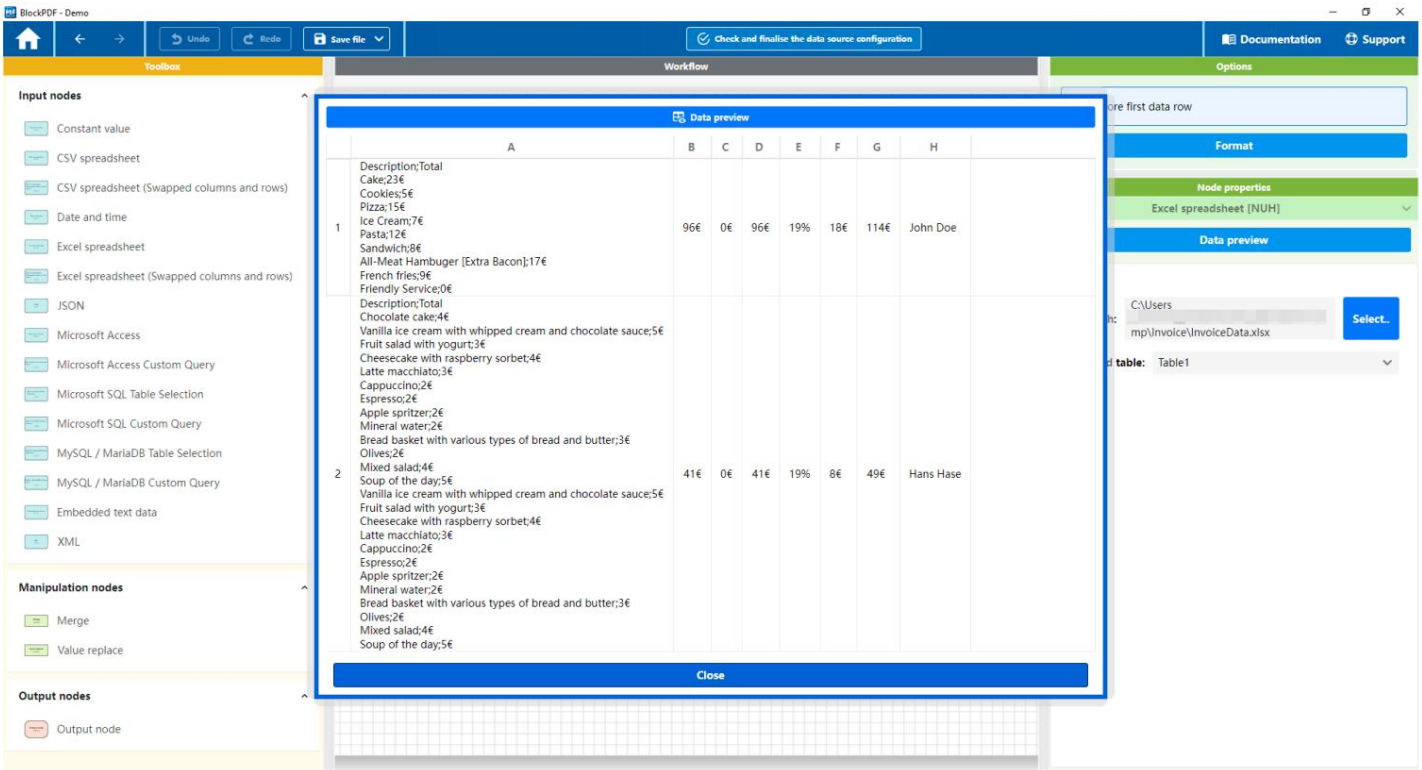
4.6.3 オプション

ワークフローのグローバル設定はオプションで行うことができます。
たとえば、デフォルトで最初のレコードを無視するかどうかを決定します。ワークフローを再配置して明確にするオプションもあります。

Machine Translated by Google

4.6.4 要素のプロパティ

各ノードの特定のプロパティはここで表示および構成できます。ノードを選択すると、そのプロパティが表示されます。この時点で、ワークフローのこの時点までに表示されたデータをプレビューすることもできます。

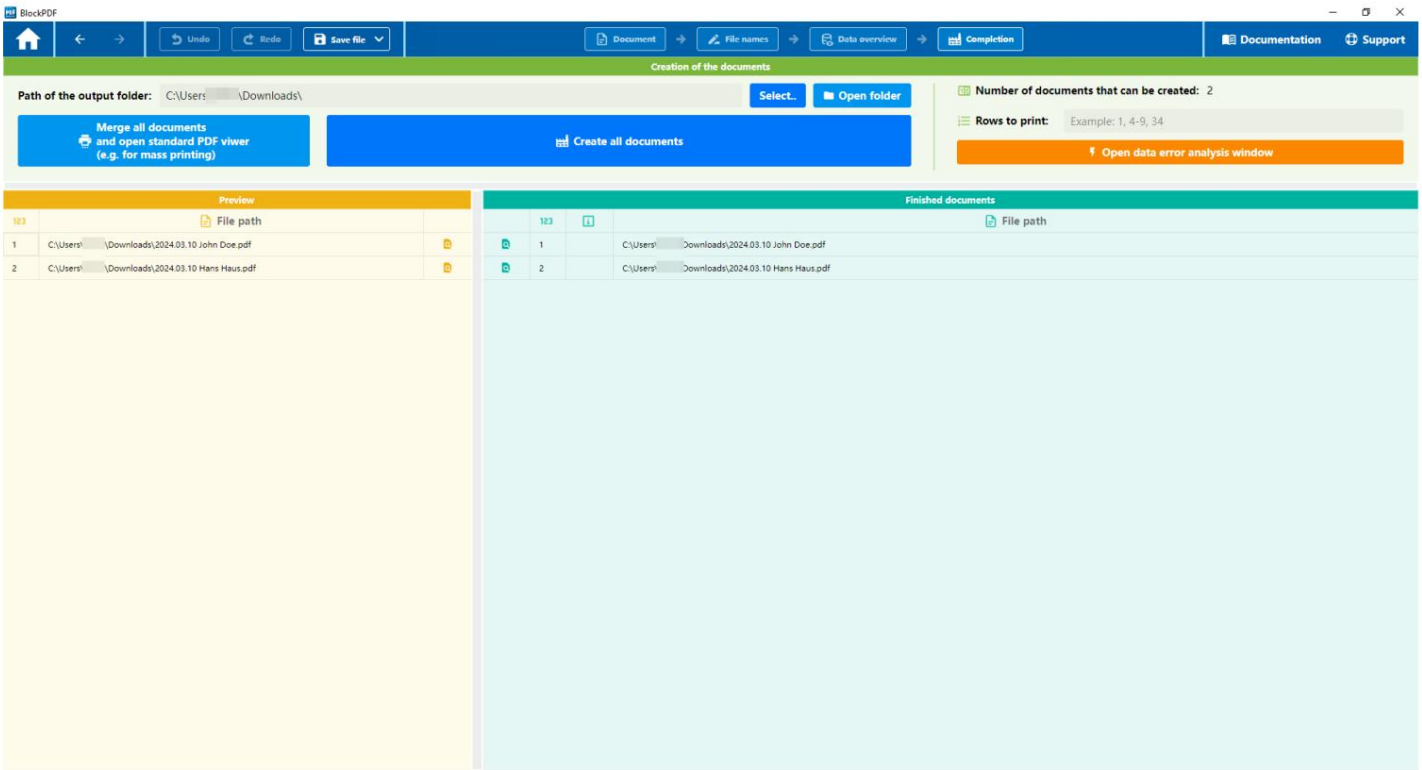


高度なワークフロー エディター - データ

この図は、ワークフローの特定の時点でデータを表示するために開くダイアログ ウィンドウを示しています。

Machine Translated by Google

4.7 完了



完了ページ

このページは、残りの構成が完了したときに PDF ドキュメントを作成するために使用されます。以下にサーフェスの個々の部分について説明します。
受け取った。

4.7.1 文書の作成

PDF ドキュメントを作成するには、まずターゲット フォルダーを定義する必要があります。
これは、「選択...」ボタンを使用して選択することによって行うことができます。

または、ファイル パス フィールドにパスを直接入力します。その後、2 つのオプションがあります。 1 つ目は、「すべてのドキュメントを結合し、標準の PDF ビューアで表示する (大量印刷用など)」です。

収集されたドキュメント、2 番目のオプション「すべてのドキュメントを作成」
個別の PDF ドキュメントが生成されます。
追加情報は別のエリアに記載されています。あ
カウンター「作成できるドキュメントの数」は、既存のワークフローとデータに基づいて作成できるドキュメントの最大数を示します。
ソースを生成することができます。ワークフローは次のとおりです。
データ レコードの最小数によって、生成できる PDF の総数の上限が決まります。さらに、「印刷する行数」オプションを使用すると、

Machine Translated by Google

作成される可能性のあるドキュメントのうちどれを実際に作成するかについての特定の選択。 「ドキュメントの並行作成」オプション
ドキュメントのソートされていない並列作成を有効にして、すべてのプロセッサ コアを使用して作成を高速化しました。
最後に、「データエラー分析ウィンドウ」を開くボタンがあります。
このウィンドウには、不正確または不適切な原因による潜在的なエラーがリストされます。
データはドキュメントの作成中に発生する可能性があります。典型的な例
このようなエラーは、「ケーキ」のようなテキストをフィールドに入力しようとしている場合に発生します。
テキスト サイズなどの数値が必要です。以来、
テキストは数値に変換できません。通常はこれが当てはまります。
エラーにつながります。しかし、この分析ツールを使用すると、そのような問題を早期に特定し、回避することができます。

4.7.2 プレビュー

プレビュー機能は 3 つの列からなる表に構成されています。最初
列には行番号が表示され、ドキュメントの順序が反映されます。 2 番目の列には、PDF ファイルを保存するファイル パスがリストされます。 3 番目の列にはドキュメントごとに 1 つが含まれます

特定のボタン。このボタンを押すとプレビューできます
対応する PDF ドキュメントを作成し、標準の PDF ビューアで開きます。

4.7.3 完成した書類

完成したドキュメントの概要が 4 つの列からなる表に表示されます
表示:

1. PDF を開きます。最初の列には、アクションまたはへのリンクがあります。
   対応する PDF ドキュメントを標準の PDF ビューアで直接開くには
   ねん。

2. 行番号: 2 番目の列には行番号が表示されます。これにより、リスト内の各文書を一意に識別できます。

3. エラー情報: PDF ドキュメントの作成が成功しなかった場合、詳細なエラー情報が 3 列目に表示されます。
   提供された。

4. ファイル パス: 4 番目の最後の列は、PDF ドキュメントの場所を示します。
   に。

Machine Translated by Google

5

ブロック

このセクションでは、さまざまな種類のブロックを紹介します。
PDF ドキュメントのデザインに使用できます。ブロックは
このアプリケーションでは、PDF ドキュメントの基本的な構成要素と有効化
コンテンツの多用途かつ正確な配置。それらは、相対ブロックと絶対ブロックの 2 つの主なカテゴリに分類できます。

5.1 相対ブロック

相対ブロックは柔軟で、構造と寸法に基づいています。

文書のバージョン。周囲のコンテンツに動的に適応します
さまざまなページの長さと幅に自動的に適応するレスポンシブ レイアウトの作成に最適です。相対ブロックの中には、視覚要素、位置、

コンテンツ フロー、レイアウト、その他の特殊なブロック。

Machine Translated by Google

5.1.1 ビジュアル

ビジュアル カテゴリには、ビジュアル デザインと
PDF ドキュメント内のコンテンツの表示に重点を置きます。これには以下が含まれます
「テキスト フラグメント コンテナ」や「テキスト フラグメント」など、柔軟なテキスト デザイン用のブロック。
さまざまなスタイルのテキスト セグメントを個別に調整できます。さらに、このカテゴリには、背景色、フレーム、
画像、線などの視覚的な強化のための要素が含まれています。

文書を魅力的で読みやすいものにします。また、強調表示のための可変スケーリングを使用して画像を統合する
機能も提供します。
水平線と垂直線を使用したり、広範なスタイル オプションを使用してテキストを埋め込んだりできます。プレー
スホルダー ブロックはレイアウトの計画をサポートします。
将来のコンテンツ用にスペースを予約することによって。一緒に実現する
これらのビジュアル ブロックは、個々のテキスト フラグメントの詳細なデザインから、

全体的な美学。

5.1.1.1 テキスト フラグメント コンテナ / テキスト フラグメントこれら 2 つのブロック、「テキスト フラグメント コンテナ」と「テキスト フラグメント」は、PDF ドキュメント内にテキストを含めるように設計されています。
柔軟であること。 「テキストフラグメントコンテナ」は、さまざまなテキストのコンテナとして機能します。
「テキストフラグメント」要素を使用すると、個別のスタイル設定でテキストセグメントを作成できます。これにより、さまざまなフォント、サイズ、色を使用して複雑な構造化テキストを一貫したセクションに表示できます。

テキストフラグメントコンテナのプロパティ (オプション):

—太字:選択すると、テキストが太字で表示されます。

—エクストラブラック:選択すると、テキストがエクストラブラックフォントで表示されます。
示された強さ。

—斜体:選択すると、テキストが斜体になります。

—取り消し線:選択すると、テキストに取り消し線が表示されます。

—下線付き:選択すると、テキストに下線が付きます。

—フォント サイズ:フォントのサイズを定義します。

—フォントの色:テキストの色を定義します。

—背景色:テキストの背景色を定義します。

—フォント ファミリ:テキストのフォント ファミリを定義します。

—行の高さ:行間隔を定義します。

Machine Translated by Google

—文字間隔:文字間のスペースを定義します。

—どこでも改行:選択すると、すべての場所で改行が許可されます。
テキスト内に置きます。

—テキストの配置:テキストの配置を定義します。

—細い:選択すると、テキストは細いフォントの太さで表示されます。

— Extra Light:選択すると、テキストのフォントの太さが非常に軽くなります。
示されています。

—ライト:選択すると、テキストは明るいフォントの太さで表示されます。

—標準:選択すると、テキストは通常のフォントの太さで表示されます。

—中:選択すると、テキストは中程度のフォントの太さで表示されます。

—半太字:選択すると、テキストが半太字で表示されます。

—極太字:選択すると、テキストが極太字で表示されます。

—黒:選択すると、テキストは黒のフォントウェイトで表示されます。

—通常の位置:選択すると、テキストは通常の垂直位置になります。
位置を示します。

—下付き文字:選択すると、テキストが下付き文字で表示されます。

—上付き文字:選択すると、テキストが上付き文字で表示されます。

テキストフラグメントのプロパティ:
必要：

—テキスト:表示するテキスト。

オプション:

「テキストフラグメント」のオプションのプロパティは、「テキストフラグメント」のオプションのプロパティに対応します。

コンテナを断片化し、テキストセグメントごとに個別に調整できるようにします。
コンテナ内のメンツ。

5.1.1.2 背景ブロックは、PDF ドキュメントの領域に背景色を追加するために使用されます。これは、特定の領域を区切ったり強調表示したりするなど、視覚的なデザインに使用できます。

の。

特徴:
必要

Machine Translated by Google

—色:ブロックの背景色を設定します。仕様は 16 進数の ARGB 形式であり、透明度 (アルファ) と色の値が含まれます。

赤、緑、青。

5.1.1.3 境界線このブロックは、1 つ以上の境界線を作成するために使用されます。

PDF ドキュメントの領域を描画します。余白はカスタマイズ可能

各辺 (左、上、右、下)の幅を設定できます
彼らの色だけでなく。これは、要素を視覚的に分離したり強調表示したりする場合に便利です。

特徴:

オプション

—左の幅:左マージンの幅を定義します。

—上部の幅:上部マージンの幅を定義します。

—右幅:右マージンの幅を定義します。

—下の幅:下のマージンの幅を定義します。

—色:境界線の色を設定します。情報は 16 進数で表示されます
ARGB 形式 (透明度 (アルファ) と色の値を含む)
赤、緑、青。

5.1.1.4 画像このブロックを使用すると、PDF ドキュメントに画像を挿入できます。

ファイルまたはデータ ソース (Base64 またはファイル パス) から画像を挿入し、ドキュメントに最適に収まるようにそのスケーリングを調整できます。スケーリング オプションを使用すると、画像の幅、

高さまたは利用可能な領域を指定できるため、さまざまなレイアウト状況で多用途に使用できます。

特徴:

必要

—画像ファイル:画像ファイルへのパス、または Base64 でエンコードされた画像データへのパス。
PDFが表示されるはずです。

オプション

—スケーリング:ブロック内の画像をどのようにスケーリングするかを定義します。オプション
「幅の調整」(ブロックの幅を調整)、「高さの調整」です。
(ブロックの高さを調整します) および「領域に合わせる」 (画像を利用可能な領域に比例してフィットさせます)。スケーリングがない場合
が指定されている場合、デフォルトで Fit Range が使用されます。

Machine Translated by Google

5.1.1.5 水平線このブロックを使用すると、PDF ドキュメントに水平線を描画できます。異なるセクション間を視覚的に区切ったり、特定のコンテンツを強調したりするために使用できます。線の太さや色などもカスタマイズできるので、デザインアイデアに合わせて柔軟にデザインすることができます。

プロパティ: 必須

—サイズ:線の太さを定義します。

オプション

—色:透明度 (アルファ) と赤、緑、および赤の色の値を含む、16 進数の ARGB 形式で指定された線の色を決定します。
青。

5.1.1.6 垂直線このブロックを使用すると、PDF ドキュメントに垂直線を引くことができます。この機能は、コンテンツを区別したり、注意を引くデザイン要素を追加したりするために使用できます。

特定のエリアに直接アクセスします。線の太さや色はカスタマイズ可能

これにより、ドキュメントの全体的なデザインに合わせてブロックをカスタマイズできるようになります。

プロパティ: 必須

—サイズ:線の太さを決定します。

オプション

—色:線の色を設定します。値は 16 進数の ARGB 形式で指定され、透明度 (アルファ) と赤、緑、青の色の値が含まれます。

5.1.1.7 テキストこのブロックを使用すると、PDF ドキュメントにテキストを挿入でき、ニーズに合わせてテキスト スタイルを調整するためのさまざまなカスタマイズ オプションが提供されます。フォントのサイズ、色、スタイル、その他のテキストの多くの側面を個別に調整できます。

特徴:

必要

—テキスト:ブロックに表示されるテキスト。以下の場合にもサポートされています-
日付と時刻の文字列を結合します。

オプション

Machine Translated by Google

—太字:選択すると、テキストが太字で表示されます。

—エクストラブラック:選択すると、テキストがエクストラブラックフォントで表示されます。
示された強さ。

—斜体:選択すると、テキストが斜体になります。

—取り消し線:選択すると、テキストに取り消し線が表示されます。

—下線付き:選択すると、テキストに下線が付きます。

—フォント サイズ:フォントのサイズを定義します。

—フォントの色:テキストの色を定義します。

—背景色:テキストの背景色を定義します。

—フォント ファミリ:テキストのフォント ファミリを定義します。

—行の高さ:行間隔を定義します。

—文字間隔:文字間のスペースを定義します。

—どこでも改行:テキスト内の任意の位置で改行を許可します。
文章。

—テキストの配置:テキストの配置を定義します。

—細い:選択すると、テキストは細いフォントの太さで表示されます。

— Extra Light:選択すると、テキストのフォントの太さが非常に軽くなります。
示されています。

—ライト:選択すると、テキストは明るいフォントの太さで表示されます。

—標準:選択すると、テキストは通常のフォントの太さで表示されます。

—中:選択すると、テキストは中程度のフォントの太さで表示されます。

—半太字:選択すると、テキストが半太字で表示されます。

—極太字:選択すると、テキストが極太字で表示されます。

—黒:選択すると、テキストは黒のフォントウェイトで表示されます。

—通常の位置:選択すると、テキストは通常の垂直位置になります。
位置を示します。

—下付き文字:選択すると、テキストが下付き文字で表示されます。

—上付き文字:選択すると、テキストが上付き文字で表示されます。

Machine Translated by Google

5.1.1.8 プレースホルダーこのブロックは、PDF 内にプレースホルダーを作成するために使用されます。
文書を作成します。ワイルドカードはさまざまな目的に使用できます
たとえば、将来のコンテンツ用にスペースを予約したり、
最終的なコンテンツが利用可能になる前にレイアウトを設計するのに役立ちます。
は。オプションのテキストを柔軟に追加できるため、目的や
プレースホルダーの使用計画をマークします。これは、
ドキュメント作成の初期段階で役立ちます。
特徴:
オプション

—テキスト:プレースホルダーに表示されるテキストを指定できます。
これを使用して、対象となる目的に関する情報を提供できます。
プレースホルダーの意味や目的を伝えるため。

5.1.1.9 現在のページ番号現在のページ番号ブロックは、ページを表示するために使用されます。
ブロックが配置されている現在のページの番号を自動的に挿入します。これにより、読者は現在ドキュメントのどのページを閲覧しているのかを簡単に識別できるようになります。このブロックを文書内に柔軟に配置して、フッター、ヘッダー、またはページ番号が読者の方向転換に役立つその他の領域に使用することができます。利用可能な書式設定オプションは、セクションにあるように、テキスト ブロックの書式設定オプションに対応しています。

5.1.1.7で説明されています。

5.1.1.10 合計ページ番号合計ページ番号ブロックは、文書内の合計ページ数を示します。これは読者にとって特に役立ちます
文書がどれほど広範囲にわたるかを概観します。似ている
現在のページ番号と同様に、このブロックは文書内のどこにでも配置できますが、多くの場合、ページ番号のブロックと組み合わせて使用されます。
ページ X/Y のような形式を作成するために使用される現在のページ番号。以下に示すように、使用可能な書式設定オプションはテキスト ブロックの書式設定オプションに対応しています。
セクション5.1.1.7で説明されています。

Machine Translated by Google

5.1.2 位置決め

Positioning カテゴリは、PDF ドキュメント内のコンテンツの正確な配置と配置に焦点を当てたブロックをグループ化します。これらにより、水平方向および垂直方向の拡大、拡大縮小、回転、縮小、移動、および特定の要素の幅と高さの決定を細かく制御できます。これらのツールは、テキストから画像、グラフィックスに至るすべての要素が最適に配置され、表示されるようにすることで、正確で美しいレイアウトを実現するために不可欠です。

5.1.2.1 配置このブロックは、コンテンツ内のコンテンツを配置するために使用されます。

PDF ドキュメント内の領域。横向きと横向きの両方で使用できます

また、垂直方向の配置を構成して、コンテンツを必要な場所に正確に配置します。これにより、コンテンツを魅力的かつ明確に提示するための柔軟なデザイン オプションが提供されます。

機能: オプション

—水平方向の配置:コンテンツの水平方向の位置を定義します。可能な値は「Left」、「Middle」、「Right」です。この設定により、コンテンツがブロック内のどこに水平方向に配置されるかが決まります。

—垂直方向の配置:コンテンツの垂直方向の位置を定義します。可能値は「上」、「中」、「下」です。この設定は、ブロック内のコンテンツを垂直方向に配置する位置を決定します。

5.1.2.2 アスペクト比このブロックはアスペクト比を設定するために使用されます。

PDF ドキュメント内の領域。アスペクト比は、コンテンツの幅と高さが相互にどのように関係するかを決定します。これは、画像や図などの視覚要素を正確にサイズ変更して表示する場合に特に役立ちます。

特徴:

必要

—アスペクト比:ブロックの幅と高さの比率を設定します。値は比率を示す浮動小数点数です (例: アスペクト比 16:10 の場合は 1.6)。

5.1.2.3 水平方向と垂直方向の拡張このブロックは次の目的で使用されます。

PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを拡張して、利用可能なスペースを最大限に活用します。を確保するのに特に役立ちます。

Machine Translated by Google

画像やテキストのブロックなどのコンテンツが割り当てられた領域を完全に満たしていること
特定の寸法を指定する必要はありません。

5.1.2.4 水平方向に拡張このブロックは、内部のコンテンツを拡張するために使用されます。
PDF ドキュメントの領域内を水平方向に拡張して、
利用可能な幅全体を使用します。これは、テキストの行やブロックなどの水平方向の要素が割り当てられた幅全体になるようにするのに最適です。
特定の幅の情報を提供する必要なく、エリアの幅を指定できます。

5.1.2.5 垂直方向に展開このブロックは、内部のコンテンツを展開するために使用されます。
PDF ドキュメントの半分の領域を垂直方向に拡大して、全体をカバーするようにします。
利用可能な高さを使用します。これは、次のことを保証するのに特に適しています。
列や画像などの垂直要素、割り当てられた全体の高さ
特定の高さの情報を必要とせずにエリアを占有します。

5.1.2.6 水平方向に回転このブロックは、コンテンツ内のコンテンツを回転するために使用されます。
PDF ドキュメントの半分の領域を水平方向に反転します。この機能は、テキスト、画像、グラフィックなどのコンテンツを横軸で反転することで、効果や特殊なレイアウト要件を実現するのに役立ちます。

表示される。

5.1.2.7 Flipこのブロックは、コンテンツ内のコンテンツを反転するために使用されます。
PDF ドキュメントの領域を上下逆さまのように 180 度回転します
が提供されることになります。クリエイティブなレイアウトデザインや特殊なデザインに使用できる機能です。
表示効果は、テキスト、画像、
グラフィックを逆さまに見せる方法で表示する。

5.1.2.8 垂直方向に回転このブロックは、内部のコンテンツを回転するために使用されます。
PDF ドキュメントの領域を垂直方向に反転します。この機能は、テキスト、画像、グラフィックスなどのコンテンツを垂直軸に沿って反転することで効果や特別なレイアウトを作成する場合に特に便利です。

鏡像表現。

5.1.2.9 高さこのブロックは、領域の高さを設定するために使用されます。
PDFドキュメントを設定します。これは、次のようなコンテンツを確実に表示するのに役立ちます。
テキスト、画像、グラフィックスは希望の高さを正確に占めます。
正確なレイアウト設計と設計仕様への準拠。
特徴:
必要

—高さ:ブロックの高さを設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。

Machine Translated by Google

5.1.2.10 最小/最大高さこのブロックは、最小値と最大値を設定するために使用されます。
PDF ドキュメント内の領域の最大高さを設定します。この柔軟性により、定義された高さの範囲内でコンテンツを変更できるようにデザインすることができます。これは、さまざまな量のコンテンツに対応したり、さまざまな条件下でレイアウトの一貫性を確保したりする場合に特に役立ちます。

機能: オプション

—最小高さ:ブロックの最小高さを設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。これにより、ブロックが特定の高さ以下に縮まないことが保証されます。

—最大高さ:ブロックの最大高さを設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。これにより、ブロックが特定の
身長が伸びる。

5.1.2.11 最小/最大幅このブロックは、PDF ドキュメント内の領域の最小幅と最大幅を設定するために使用されます。これらの値を指定すると、定義された幅の範囲内でコンテンツが柔軟に表示されるようになります。これは、さまざまな量のコンテンツに対応したり、さまざまなコンテンツ サイズにわたって一貫したレイアウトを確保したりするために特に有利です。

機能: オプション

—最小幅:ブロックの最小幅を設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。これにより、ブロックが特定の値より狭くならないことが保証されます。

—最大幅:ブロックの最大幅を設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。これにより、ブロックが特定の値よりも広くなるのを防ぎます。

5.1.2.12 パディングこのブロックを使用すると、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツの周囲にパディングを適用できます。パディングを追加すると、ブロックの端とその内容の間の距離を調整できるため、視覚的に分離され、読みやすさが向上します。このプロパティは、コンテンツを見た目が美しい方法で表示する場合に特に役立ちます。

機能: オプション

Machine Translated by Google

—左パディング:コンテンツの左側のパディングを設定します。の
仕様は浮動小数点数として指定されます。

—上部の間隔:コンテンツ上部の間隔を設定します。の
仕様は浮動小数点数として指定されます。

—右の間隔:コンテンツの右側の間隔を設定します。の
仕様は浮動小数点数として指定されます。

—下部パディング:コンテンツの下部にパディングを設定します。の
仕様は浮動小数点数として指定されます。

5.1.2.13 左回転このブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを左に回転するために使用されます。

5.1.2.14 右回転このブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを右に回転するために使用されます。

5.1.2.15 スケーリングこのブロックは、コンテンツ内のコンテンツをスケーリングするために使用されます。
PDF ドキュメントの領域。スケーリングが役立つ
デザイン要件に応じたテキスト、画像、グラフィックなどのコンテンツ
ページ上により多くのコンテンツを収容するため、または特定の要素を強調表示するためです。

特徴:
必要

—スケーリング:スケーリング係数を整数として定義します。値 100
元のサイズに対応し、100 を超える値は増加し、
100 未満の値を指定すると、コンテンツのサイズが小さくなります。

5.1.2.16 オンデマンドでのスケールこのブロックは、コンテンツをスケールするために使用されます。
PDF ドキュメントの領域内に完全に収まるように
コンテンツのアスペクト比を変更せずに、割り当てられた領域にフィットします。これは、画像、グラフィックス、または
他の視覚要素は、切り取られたり、意図した領域を超えたりすることなく、完全に表示されます。

5.1.2.17 縮小このブロックは、内部のコンテンツを縮小するために使用されます。
領域自体のサイズを変更せずに、利用可能なスペースに合わせて PDF ドキュメントの領域のサイズを変更します。
これ
この機能は、オーバーフローを防止し、
スペースが限られている場合でも、すべてのコンテンツが表示されたままになります。

Machine Translated by Google

5.1.2.18 水平方向に縮小このブロックはコンテンツを表示するために使用されます
PDF ドキュメントの領域内を水平方向に縮小して、
利用可能な幅に収まります。この機能は特別です
これは、テキスト、画像、図などのコンテンツが、過負荷を引き起こすことなく意図された水平スペース内に表示されたままになるようにするのに役立ちます。
実行または望ましくない混乱。

5.1.2.19 垂直方向に縮小このブロックは、PDF ドキュメントの領域内に収まるようにコンテンツを垂直方向に縮小するために使用されます。
利用可能な高さが適切です。この機能によりコンテンツが許可されます
テキスト、画像、表などをオーバーフローすることなく指定された垂直方向のスペース内に収まるようにします。これは
ドキュメントの読みやすさとレイアウトを改善するのに特に役立ちます
限られたスペースを確保するために。

5.1.2.20 シフトこのブロックを使用すると、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを X 軸と Y 軸に沿って移動できます。これ
関数を使用して、コンテンツを正確に配置したり、
テキスト、画像、グラフィックスなどのコンテンツを追加して、特別なレイアウト効果を実現します
元の位置に対して相対的に移動されます。
特徴:
オプション

— X ディスプレイスメント: X 軸に沿ったコンテンツのディスプレイスメントを定義します。
(水平)。情報は浮動小数点数として与えられます。

— Y シフト: Y 軸に沿ったコンテンツの変位を定義します。
（垂直）。情報は浮動小数点数として与えられます。

5.1.2.21 無制限このブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを制限なしで表示するために使用されます。
レンダリングするサイズ。これは、コンテンツが自然なサイズのままであることを意味します。
周囲のコンテナのサイズ制限に関係なく。これ
これは、次のような特定のコンテンツを確実に保護したい場合に役立ちます。
画像や図は、自動的に拡大縮小されずにフルサイズで表示できます。

5.1.2.22 幅このブロックは、領域の幅を設定するために使用されます。
PDF ドキュメント。これは特に、

Machine Translated by Google

テキスト ブロック、画像、グラフィックスなどのコンテンツが希望の幅を正確に占めるため、レイアウトの正確な設計と設計仕様への準拠がサポートされます。

特徴:

必要

—幅:ブロックの幅を設定します。情報は浮動小数点数として与えられます。

Machine Translated by Google

5.1.3 コンテンツの流れ

コンテンツ フロー カテゴリは、コンテンツのレイアウトを決定するブロックをグループ化します。
対象を絞った方法で PDF ドキュメントに影響を与えます。コンテンツ間の間隔を制御します。
最適な読みやすさのために改ページを強制するか、改ページを防止します
そして魅力的なデザインを保証します。これらには、条件付き表示、ワンタイム表示、またはコンテンツのターゲットを絞ったスキップの機能が含まれます。このような制御要素は、情報の表示と文書の美しさの両方を向上させる正確な文書構造に不可欠です。

5.1.3.1 安全なスペースこのブロックは、安全なスペースを確保するために使用されます。
PDF ドキュメントの領域内の特定の最小垂直距離
ステータスは存在します。これは、十分な量を確保するのに役立ちます。
後続のコンテンツまたはページを区切るためのスペースがあり、
十分なスペースがない場合は、新しいセクションが始まる前に。
特徴:
必要

—高さ:確保すべき部屋の最低高さを定義します。
情報は整数として与えられます。

5.1.3.2 改ページこのブロックは改ページを作成するために使用されます。
PDF ドキュメント内で。つまり、次の内容は、
このブロックに続くと新しいページが始まります。これは次のような場合に役立ちます
ドキュメントのセクションを明確に分けたり、章を開始したり、特定のコンテンツが常にページの先頭に表示されるようにしたりする
なる。

5.1.3.3 Show Fullこのブロックは、
PDF ドキュメントの領域内のコンテンツが、一部が切り取られることなく完全に表示されること。これは特に便利です
画像、表、図などのコンテンツ全体を表示する
これが周囲のコンテナを調整する必要があることを意味する場合は、
コンテンツ全体を記録します。

5.1.3.4このブロックがコンテンツ内のコンテンツを表示するために使用されるかどうかを表示します。
特定の条件に基づいて PDF ドキュメントを条件付きで表示します。
条件が満たされる場合、コンテンツが表示されます。そうしないと、コンテンツがスキップされ、ドキュメントに表示されません。これにより、ダイナミックな

Machine Translated by Google

事前定義された基準またはユーザー入力に基づく動的コンテンツ表現
依存させることができます。
特徴:
必要

—表示対象:コンテンツがブール値に基づいているかどうかを定義します。
状態が表示されるはずです。情報はブール値として与えられます。

5.1.3.5 Show Onceこのブロックは、次のことを保証するために使用されます。

PDF ドキュメントの領域内のコンテンツは 1 回だけ表示されます
ブロックが文書内にどのくらい頻繁に出現するかは関係ありません。

5.1.3.6 1 回スキップこのブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツを最初に出現したときにスキップし、同じブロックの後続のインスタンスでのみコンテンツをレンダリングするために使用されます。

これは、特定の情報やセクションが必要な場合に便利です。
文書内でブロックが最初に出現した後にのみ表示されます
すべき。

5.1.3.7 改ページの停止このブロックは、PDF ドキュメントの特定のコンテンツ領域内に改ページが自動的に挿入されるのを防ぐために使用されます。これは、すべてのコンテンツが残ることを意味します

十分なスペースがあると仮定して、同じ側のこのブロックの後に来ます。これは、特定のセクションを保証するのに役立ちます
または、一緒に表示される表、グラフィック、テキスト ブロックなどの要素が改ページで区切られていません。

そうあるべきだ。

Machine Translated by Google

5.1.4 レイアウト

このカテゴリには、PDF ドキュメント内のコンテンツの構造と配置を定義するブロックが含まれています。基本部門から
ページと行での詳細な配置から列での詳細な配置、インライン書式設定まで
これらのブロックを互いに重ね合わせると、ドキュメントを正確にデザインできるようになります。

5.1.4.1 ページ ブロックページ ブロックは、すべての PDF ドキュメントの基本構造を形成します。ドキュメントの個々のページを定義し、保持します。

その下には、コンテンツ、ヘッダー、フッターを含む特定のブロックがあります。
ページを構成します。柔軟なデザインにより、各ページをカスタマイズし、ドキュメントのニーズに合わせて調整することができます。それは
ページのコンテンツのブロックは常にページの下にあることに注意することが重要です。
ドキュメントを作成するには存在する必要があります。
特定のサブブロック:

—ページのコンテンツ:このサブブロックは必須であり、すべてのページに存在する必要があります。
利用できるようになります。テキストや画像などのページのメインコンテンツが格納されます。
または図表。ページ ブロックのコンテンツは、ページ ブロックを構成する中心的な要素です。
文書の一次情報。

—ページ フッター:フッターは、各ページの下部に追加情報を表示できるオプションのサブブロックです。通常、日付、ページ番号、または法的情報が含まれます。フッターは文書内の方向を示すために使用され、

ブランドアイデンティティを強化するために使用できます。

—ページヘッダー:フッターと同様に、ヘッダーには次のスペースが提供されます。
ページの上部に定期的な情報が表示されます。彼女は行くことができます
たとえば、会社のロゴ、ドキュメントのタイトル、章の見出しなどを含めます。ヘッダーにより読みやすさと専門性が向上します
文書の外観。

5.1.4.2 行ブロック行ブロックは、PDF ドキュメント内のコンテンツを垂直方向に編成するために不可欠です。ラインには自動または

高さが固定されており、さまざまなデザインやレイアウトの要件に適応します。

自動改ページ:自動改ページを備えた行の重要な側面
高さは改ページの処理です。行の内容が
ページ上の利用可能なスペースを超えると、システムが自動的にスペースを作成します。

Machine Translated by Google

ページ突破。これにより、すべてのコンテンツが完全であることが保証され、
手動介入なしで正しく表示されます。自動改ページ機能は、文書全体にわたって一貫した読みやすさを保証するため、長いテキストの一節や可変のコンテンツ長を含む文書に特に役立ちます。

線種:

—線 (自動):含まれるコンテンツに合わせて高さを動的に調整します。
に。この適応性は、さまざまなサイズのコンテンツに最適です
最適な結果を確保するために、必要に応じて自動的に改ページが実行されます。
代表性を確保するため。

—行(一定):内容に関係なく同じ高さの固定です。
残っています。見た目の統一感が得られ有利です。
文書のさまざまな部分にわたって一貫した行の高さがある場合
が必要です。

行コンテナ:行ブロックの親コンテナが行ブロックを調整します。
垂直方向に配置し、自動または一定の高さでコンテンツを柔軟に配置できます。この構造化された組織がサポートします。
複雑なレイアウトの作成。

5.1.4.3 列ブロック列ブロックは、コンテンツを表示するための柔軟な方法を提供します。
PDF ドキュメント内で列形式で隣り合って配置します。これらは、テキスト、画像、その他の要素を構造化された形式で整理する場合に特に役立ちます。
見た目にも美しいレイアウトを実現します。列は自動的に、一定に、または利用可能な幅に応じて調整できます。

さまざまな設計要件に対応します。
列の種類:

—列 (自動幅):これらの列は、コンテンツに合わせて幅を自動的に調整します。これらは、範囲が事前に不明であるか、変更される可能性があるコンテンツに最適です。自動幅調整により、コンテンツが無駄なく最適に表示されます。

手動調整が必要です。

—列 (定数):定数列の幅は固定です。
ユーザーが定義されています。このオプションは、厳密なレイアウトを必要とするレイアウトに適しています。
ページまたは要素間で視覚的な一貫性が必要です。を通して
一定の幅を設定することにより、ドキュメントの外観を正確に制御できます。

Machine Translated by Google

—列 (相対):相対列は、使用可能な幅のパーセンテージを使用します。この柔軟性により、コンテナの幅全体にコンテンツを動的に適応させることが可能になり、レスポンシブデザインには特に有利です。相対幅調整では、他の要素および利用可能なスペースとの関係で列幅を調整します。

列コンテナ:列コンテナは、さまざまな列タイプを保持および調整する親コンテナとして機能します。これにより、列が特定のプロパティに従って正しく配置され、レンダリングされることが保証されます。このコンテナ内では、コンテンツを自動的に柔軟に編成でき、

定数列または相対列を使用して、複雑なレイアウトと構造を作成します。

5.1.4.4 Inline Inline ブロックは、次のことを可能にする多用途のコンポーネントです。
PDF ドキュメント内でコンテンツを水平方向に配置します。この機能

テキスト、画像、その他の要素を流れるような線でレイアウトする場合に特に便利で、複雑で視覚的に魅力的なドキュメントを簡単に作成できます。インライン配列は、要素の正確な配置を保証するために、さまざまな位置合わせおよび間隔パラメーターをサポートしています。

10。

特徴:

オプション

—垂直間隔:垂直間隔を設定できます。
要素を垂直方向にインライン化します。

—水平方向の間隔:水平方向の間隔を設定できます。
要素を水平方向にインライン化します。

—ベースラインの配置:周囲のテキスト行のベースラインを基準とした要素の垂直方向の配置を決定します。オプションには、上、中、下があります。

—インライン配置:コンテナ内のインライン要素の水平方向の配置を設定します。可能な値は、左、中央、右、両端揃え、およびスペースの周囲です。

5.1.4.5 レイヤーレイヤー ブロックを使用すると、要素を配置できるさまざまなレイヤーを提供することにより、PDF ドキュメント内のコンテンツを重複して配置できます。これは、シェーディング、オーバーレイなどの視覚効果や奥行きの作成に特に役立ちます。

Machine Translated by Google

達成するために。このブロックの特別な特徴は、要素が上から下に階層的に処理され、最後に追加された要素が処理されることです。
要素 (階層内の最下位のブロック) は、視覚的に他の要素の上に配置されます。

Machine Translated by Google

5.1.5 その他のブロック

バーコードやフォーム フィールドなど、PDF ドキュメントをデザインするための特定のブロックに加えて、ドキュメントの構造と外観を改善するための幅広い機能を提供するブロックが他にも多数あります。これらには、コンテンツの方向、デバッグ、テキスト スタイル、ハイパーリンク、セクションのブロックが含まれます。

5.1.5.1 左から右へのコンテンツ方向このブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツの左から右への配置を設定するために使用されます。これは、左から右に書かれる言語での読み順をサポートする場合に特に便利で、文書の明瞭さと読みやすさの向上に役立ちます。

5.1.5.2 右から左へのコンテンツ方向このブロックは、PDF ドキュメントの領域内のコンテンツの右から左への配置を設定するために使用されます。これは、アラビア語やヘブライ語など、伝統的に右から左に書かれる言語をサポートする場合に特に便利で、文書の読みやすさと理解の向上に役立ちます。

5.1.5.3 デバッグ領域このブロックはデバッグ領域をマークするために使用されます。
PDF ドキュメント内で。これは開発中に特に当てはまります
開発段階では、文書内に視覚的な手がかりを配置すると、トラブルシューティングや文書構造の確認に役立ちます。

デバッグ領域には、オプションで追加情報やコメントを提供するテキストを含めることができます。

機能: オプション

— OptionalText:デバッグ領域に表示されるテキストを指定できます。このテキストは、デバッグ モードで追加情報を識別または提供するために使用できます。

5.1.5.4 デフォルトのテキスト スタイルこのブロックは、デフォルトのテキスト スタイルを設定するために使用されます。
PDF ドキュメントの領域内のコンテンツの場合。これには、フォント サイズ、フォント ファミリー、太字、斜体、下線、取り消し線、その他希望どおりにテキストのスタイルを設定するさまざまなスタイル プロパティが含まれます。このブロックの柔軟性により、一貫したテキスト表現が可能になり、一貫したスタイル ガイドラインを持つ大規模なドキュメントを作成する場合に特に役立ちます。

Machine Translated by Google

特徴:

オプション

—太字:選択すると、テキストが太字で表示されます。

—エクストラブラック:選択すると、テキストがエクストラブラックフォントで表示されます。
示された強さ。

—斜体:選択すると、テキストが斜体になります。

—取り消し線:選択すると、テキストに取り消し線が表示されます。

—下線付き:選択すると、テキストに下線が付きます。

—フォント サイズ:フォントのサイズを定義します。

—フォントの色:テキストの色を定義します。

—背景色:テキストの背景色を定義します。

—フォント ファミリ:テキストのフォント ファミリを定義します。

—行の高さ:行間隔を定義します。

—文字間隔:文字間のスペースを定義します。

—どこでも改行:テキスト内の任意の位置で改行を許可します。
文章。

—フォントの太さ:フォントの太さを定義します。

—テキストの配置:テキストの配置を定義します。

—細い:選択すると、テキストは細いフォントの太さで表示されます。

— Extra Light:選択すると、テキストのフォントの太さが非常に軽くなります。
示されています。

—ライト:選択すると、テキストは明るいフォントの太さで表示されます。

—標準:選択すると、テキストは通常のフォントの太さで表示されます。

—中:選択すると、テキストは中程度のフォントの太さで表示されます。

—半太字:選択すると、テキストが半太字で表示されます。

—極太字:選択すると、テキストが極太字で表示されます。

—黒:選択すると、テキストは黒のフォントウェイトで表示されます。

Machine Translated by Google

—通常の位置:選択すると、テキストは通常の垂直位置になります。
位置を示します。

—下付き文字:選択すると、テキストが下付き文字で表示されます。

—上付き文字:選択すると、テキストが上付き文字で表示されます。

5.1.5.5 ハイパーリンクこのブロックは、ハイパーリンクを作成するために使用されます。
PDFドキュメントを作成します。これを使用すると、テキストや他の要素を使用できます
URL へのリンク。リンクをクリックすると、ユーザーが Web ページまたはその他のオンライン リソースに移動します。これは、詳細情報、外部ドキュメント、その他の情報にアクセスする場合に特に便利です。
関連するオンライン コンテンツを指摘します。

特徴:
必要

— URL:リンクが指す URL。これにより、オペレータは
ユーザーは、リンクされたコンテンツをクリックすると、指定された Web サイトまたはオンライン リソースに直接アクセスできます。

5.1.5.6 セクションこのブロックは、PDF ドキュメント内にセクションを作成するために使用されます。セクションを使用すると、テーマごとにコンテンツをグループ化したり、文書の構造化された構造をサポートしたりできます。
セクションに名前を付けると、文書内の移動が容易になるだけでなく、目次を作成したり、文書の特定の部分にコンテンツを割り当てたりする場合にも役立ちます。

なれ。

特徴:
必要

—セクション名:セクションの名前。この名前は識別子として機能します
コンテンツ領域の一部であり、ドキュメント内の参照やナビゲーションに使用できます。

5.1.5.7 セクション リンクこのブロックは、PDF ドキュメント内のセクションへの参照を作成するために使用されます。ユーザーを事前定義されたセクションに移動するクリック可能なリンクを設定できます。

書類の半分。これは、目次を作成したり、大きなドキュメントをナビゲートしたりする場合に特に便利で、ドキュメントの使いやすさとアクセシビリティが向上します。

プロパティ: 必須

Machine Translated by Google

—セクション名:リンクが指すセクションの名前。

この名前は、以前に定義されたセクションの名前と一致する必要があります。

リンクを確実に成功させるためのドキュメントの一致

10。

Machine Translated by Google

5.2 アブソリュートブロック

絶対ブロックを使用すると、ドキュメント内の固定位置に要素を正確に配置できます。このカテゴリは、正確な位置にある画像、文書内の特定の位置に挿入する必要があるフォーム フィールド、正確に位置合わせする必要があるバーコード フィールドを含める場合に特に便利です。これらの特定の機能に加えて、絶対ブロックは、ドキュメントに追加できる添付ファイルやその他のサポート資料の組み込みもサポートします。

ねん。

5.2.1 画像（絶対位置決め）

このブロックを使用すると、PDF ドキュメント内の特定の位置に画像を挿入できます。画像はファイルからロードすることも、Base64 としてエンコードすることもできます。さらに、ページ上の画像の位置 (X、Y) と、オプションでそのサイズ (幅と高さ) を設定して、レイアウト要件に応じて画像を調整できます。

特徴:

必要

—画像ファイル: PDF に表示される画像ファイルまたは Base64 としてエンコードされた画像データへのパス。

— X 軸の位置:ページ上の画像の X 位置 (整数として指定)
番号。

— Y 軸の位置:ページ上の画像の Y 位置。整数として指定します。
番号。

オプション

—サイズ X 軸:イメージの幅。整数として指定します。このプロパティを設定する場合は、SizeY も指定する必要があります。

—サイズ Y 軸:イメージの高さ。整数として指定します。このプロパティを設定する場合は、SizeX も指定する必要があります。

Machine Translated by Google

5.2.2 フォームフィールド

[フォーム フィールド] カテゴリには、インタラクティブな要素で PDF ドキュメントを充実させるために設計されたさまざまなブロックがあります。これらの要素は、ラジオ ボタンからチェック ボックス、組み合わせフィールドにまで及び、アンケートやフォームの柔軟な設計が可能になります。ラジオ ボタンは、個別およびグループ形式で個別に選択する機会を提供し、一貫したユーザー エクスペリエンスを作成するようにカスタマイズできます。チェックボックスは同意または複数選択に最適ですが、コンボ ボックスではドロップダウン リストから選択できるため、入力オプションが拡張されます。

日付と時刻のフィールドは、時間関連のデータを取得するための標準化された方法を提供し、リスト フィールドを使用すると、ユーザーはリストから複数のオプションを選択できます。署名フィールドは、デジタル署名を組み込む機能によって認証と検証の層を追加します。

公式文書には欠かせないものになります。結局のところ、これらはテキストフィールドです
ユーザーが独自のテキストを入力できる対話型フォームの基本フレームワーク。

これらの各ブロックには、フォーム要素の外観と動作をドキュメントの正確なニーズに合わせて調整できるカスタマイズ可能なプロパティのセットが付属しています。

5.2.2.1 ラジオ ボタンラジオ ボタン (単一) とラジオ ボタン (グループ) という 2 つのブロックが連携して、PDF ドキュメント内にラジオ ボタンのグループを作成します。ラジオ ボタン (個別) は個々のラジオ ボタンを表しますが、ラジオ ボタン (グループ) はこれらのボタンをまとまったグループとして編成するために使用されます。

ラジオ ボタン (グループ) は、グループ名やデフォルトで選択されているボタンのインデックスなど、グループの一般プロパティを設定します。複数のラジオ ボタン (個別) インスタンスをこのブロック内に配置して、各選択肢を表すことができます。

各ラジオ ボタンは、色、フレームの太さ、フォント、サイズなどに関して個別にカスタマイズできます。

グループとしてデザインすると、ラジオ ボタンを相互に論理的に接続したままドキュメント全体に分散できます。選択できるボタンはグループ内で 1 つだけですが、これはグループのメンバーシップによって保証されます。

ラジオボタン (単一) プロパティ: オプション

—色:ラジオ ボタンのテキストまたは記号の色を定義します。

Machine Translated by Google

—フラット化:最終的な PDF でラジオ ボタンが非インタラクティブとして表示されるかどうかを決定します。
要素は平らにする必要があります。

—境界線の幅:ラジオ ボタンの周囲の境界線の幅を指定します。

—テキストの配置:ラジオ ボタン内のテキストの配置を設定します。

—フォント:ラジオ ボタン内のテキストのフォントを決定します。

—フォント サイズ:ラジオ ボタン内のテキストのサイズを定義します。

ラジオボタン（グループ)のプロパティ：
必要

—グループ名:ラジオ ボタンが属するグループの一意の名前
属する。

オプション

—選択された項目のインデックス:デフォルトで選択されるラジオ ボタンのインデックスを指定します。

5.2.2.2 チェックボックスこのブロックは、PDF ドキュメントにチェックボックスを追加します。デフォルトでボックスをオンにするかどうか、および PDF をエクスポートするときにボックスを非インタラクティブな要素としてレンダリングして現在の選択内容を保持するかどうかを選択できます。また、ボックスの周囲のフレームの幅も調整できます。

機能: オプション

—チェック済み:チェックボックスをデフォルトでチェックするかどうかを指定します。

—フラット化:最終的な PDF でフィールドをフラット化するかどうかを指定します。つまり、インタラクティブ
ではなくなりますが、選択された状態は表示されます。
現金のままです。

—境界線の幅:チェック ボックスの周囲の境界線の幅。

5.2.2.3 コンボボックスこのブロックは、ユーザーがドロップダウン リストからオプションを選択できるコンボボックスを PDF ドキュメントに追加します。 PDF をエクスポートするときに、使用可能なオプションを定義し、デフォルトの要素を設定し、オプションでフィールドをフラット化することができます。

さらに、フィールドに要素を表示するためのフォントとサイズをカスタマイズできます。

機能: オプション

Machine Translated by Google

—項目:に表示されるオプションの改行で区切られたリスト。
コンボボックスが利用可能になるはずです。

—選択されたインデックス:デフォルトで選択される要素のインデックス。カウントは 1 から始まります。

—フラット化:最終的な PDF でフィールドをフラット化するかどうかを指定します。つまり、フィールドはインタラクティブではなくなりますが、選択した値は表示されます。
残っています。

—フォントとフォント サイズ (FontSize):フィールドにオプションを表示するために使用するフォントとサイズ。フォントは埋め込みフォントにすることができます。

5.2.2.4 日付と時刻このブロックは PDF ドキュメントに日付を追加します。
そしてタイムフィールド。日付と時刻の形式を変更できます
ドキュメントの特定のニーズを満たすために。
オプションで、日付と時刻を表示するフォントとサイズを設定することもできます。これにより、日付や時刻の入力が必要なフォームや文書を柔軟に設計できます。

機能: オプション

—日付と時刻の形式:日付と時刻を表示する形式
そうあるべきだ。

—フォント:日付と時刻に使用するフォント。フォントは埋め込みフォントにすることができます。

—フォント サイズ:日付と時刻に使用されるフォントのサイズ。
適用する必要があります。

5.2.2.5 リスト ボックスこのブロックは、PDF ドキュメントにリスト ボックスを追加します。リスト ボックスを使用すると、ユーザーは指定されたリストから 1 つ以上のオプションを選択できます。リストの要素を定義し、デフォルトの要素を選択済みとして設定し、オプションで PDF をエクスポートするときにフィールドをフラット化して、インタラクティブではなくなりますが、選択した値は表示されたままにすることができます。

機能: オプション

—要素:として表される改行で区切られた値のリスト。
オプションがリスト ボックスに表示されます。

Machine Translated by Google

—選択されたインデックス:デフォルトで選択される要素のインデックス。カウントは 1 から始まります。

—フラット化:最終的な PDF でフィールドをフラット化するかどうかを指定します。つまり、フィールドは非対話型になりますが、選択した値は表示されたままになります。

—フォントとフォント サイズ:フィールド内のテキストに使用するフォントとサイズ。フォントは埋め込みフォントにすることができます。

5.2.2.6 署名このブロックを使用すると、PDF ドキュメントに署名フィールドを追加できます。オプションで、連絡先情報、位置データ、署名の理由などを含むデジタル署名を証明書に追加できます。署名を視覚的に表す画像を含めることもできます。この機能は、文書に法的に署名し、文書の信頼性と完全性を保証するのに役立ちます。

10。
証明書のパスワードは .BlockPDF ファイルにプレーンテキストで保存されることに注意してください。これはセキュリティ上のリスクを引き起こす可能性があるため、機密情報を確実に保護するために適切な予防措置を講じることが重要です。

プロパティ : 必須

—フィールド名:文書内で一意の署名フィールドの名前。

オプション

—署名ファイル:デジタル署名に使用される証明書ファイルまたは証明書のバイナリ データ (Base64 エンコード) へのパス。

—署名パスワード:証明書のパスワード。

—署名の連絡先情報:署名に関連付けられた連絡先情報
そうあるべきだ。

—署名位置情報:署名に関連付けられた位置情報
そうあるべきだ。

—署名の理由:署名の理由。

—画像ファイル:署名フィールドに表示する画像。 B. 法的
署名はできません。

Machine Translated by Google

5.2.2.7 テキストフィールドこのブロックを使用すると、PDF ドキュメントにテキストフィールドを追加できます。テキスト フィールドを使用して、ユーザーがテキストを入力できる対話型フォームを作成できます。テキストの内容、テキストの色、フォント、サイズ、フィールドを複数行にするかどうかなど、テキスト フィールドのさまざまなプロパティをカスタマイズできます。 PDF をエクスポートするときにフィールドを保持するかフラット化するかを指定することもできます。つまり、テキストは PDF に永続的に埋め込まれます。

そしてインタラクティブではなくなりました。

特徴:

必要

—フィールド名:ドキュメント内で一意のテキスト フィールドの名前。

— X 軸の位置、 Y 軸の位置:ページ上のフィールドの位置。

—サイズ X 軸、サイズ Y 軸:フィールドのサイズ。

オプション

—テキスト:フィールドに表示されるデフォルトのテキスト。

—色:テキストの色。

—フラット化:最終的な PDF でフィールドをフラット化するかどうかを指定します。

—境界線の幅:テキストフィールドの周囲の境界線の幅。

—テキストの配置:フィールド内のテキストの配置。

—複数行:複数行のエントリを許可するかどうかを指定します。

—フォント、フォント サイズ:テキストのフォントとサイズ。

5.2.3 ファイル添付

このブロックを使用すると、ファイルを PDF ドキュメントに添付ファイルとして追加できます。
ファイル名、添付ファイルのパス、Base64 としてエンコードされた添付ファイル、およびオプションで説明を指定できます。この機能は、PDF に含める追加情報を提供するのに役立ちます。

次のような文書を送信する必要があります。 B. 出典文書、追加データ、または裏付け資料。

特徴:

必要

—ファイル名: PDF ドキュメントに添付されるファイルの名前
が表示されるはずです。

Machine Translated by Google

—添付ファイル:ファイルまたはバイナリ データへのパスは Base64 としてエンコードされます。
添付ファイルとして追加するファイル。

オプション

—説明:添付ファイルの説明 (オプション)。添付ファイルに関する追加情報を提供できます。

Machine Translated by Google

5.3 バーコードフィールド

「バーコード フィールド」セクションでは、データを効率的かつ効果的にエンコードするために PDF ドキュメントに追加できるさまざまなタイプのバーコードについて説明します。これらには、DataMatrix、PDF417、QR コード、Codabar、Code11、さまざまな Code128 バリアント、Code39、Code93、UPC、さらに EAN-13 および EAN-8 が含まれます。

5.3.1 データマトリックス

このブロックは、DataMatrix バーコードを PDF ドキュメントに追加します。 DataMatrix バーコードは、小さなスペースに大量のデータを保存するのに適しており、製品、文書、パッケージのマーキングによく使用されます。

特徴:

必要

— X 軸の位置:ページ上のバーコードの X 位置を設定します。値は整数として指定されます。

— Y 軸の位置:ページ上のバーコードの Y 位置を設定します。値は整数として指定されます。

—内容:バーコードの内容を決定します。文字列で指定します。

オプション

— XDimension:バーコード内の単一モジュールの幅を定義します。の
値は浮動小数点数として与えられます。

—サイズ:事前定義されたものに基づいて DataMatrix バーコードのサイズを設定します。
サイズ。これは、「PdfDataMatrixSize」列挙によって決定されます。

5.3.2 PDF417

このブロックは、PDF417 バーコードを PDF ドキュメントに追加します。 PDF417 は、大量のデータを保存するように設計された 2D バーコードで、物流、識別、およびコンプライアンスのアプリケーションで一般的に使用されます。

プロパティ: 必須

— X 軸の位置:ページ上のバーコードの X 位置を設定します。値は整数として指定されます。

— Y 軸の位置:ページ上のバーコードの Y 位置を設定します。値は整数として指定されます。

Machine Translated by Google

—内容:バーコードの内容を決定します。文字列で指定します。

—サイズ X 軸:ページ上のバーコードの幅を定義します。値は
整数として与えられます。

—サイズ Y 軸:ページ上のバーコードの高さを定義します。値は
整数として与えられます。

オプション

—エラー訂正レベル:バーコードが使用するエラー訂正のレベルを設定します。これにより、バーコードが損傷した
場合でも、ある程度までは読み取ることができます。

5.3.3 QRコード

このブロックは、PDF ドキュメントに QR コードを追加します。 QR コードは、Web サイトや情報にすばやくアクセスしたり、デバイスを接続したりするために広く使用されています。高い記憶容量と素早い読み取り性を提供します。

プロパティ : 必須

— X 軸の位置:ページ上の QR コードの X 位置を設定します。値は整数として指定されます。

— Y 軸の位置:ページ上の QR コードの Y 位置を設定します。値は整数として指定されます。

—内容: QR コードの内容を決定します。これは文字列として使用されます
指定された。

—サイズ X 軸:ページ上の QR コードの幅を定義します。値は
整数として与えられます。

—サイズ Y 軸:ページ上の QR コードの高さを定義します。値は
整数として与えられます。

オプション

—エラー訂正レベル:損傷した場合でも読み取り可能性を確保するために QR コードが使用するエラー訂正レベル
を設定します。
10。

—入力モード: QR コードのデータ処理モード (データをテキストとして処理するかバイナリ モードで処理するか
など) を決定します。

Machine Translated by Google

5.3.4 コーダバー

このブロックを使用すると、Codabar バーコードを PDF ドキュメントに挿入できます。
Codabar バーコードは、図書館、血液銀行、さまざまな宅配サービスで広く使用されています。特定の設定を使用すると、位置、サイズ、特定のバーコード プロパティなどの要件にバーコードを正確に適合させることができます。

プロパティ : 必須

— X 軸の位置:バーコードの X (水平) 位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:バーコードの Y (垂直) 位置を決定します。
ページ。

—内容:バーコードのテキスト内容を定義します。

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の狭いバーの幅を決定します。
コード。

—サイズ X 軸:バーコードの幅を定義します。

—サイズ Y 軸:バーコードの高さを定義します。

5.3.5 コード11

このブロックを使用すると、PDF ドキュメントに Code 11 バーコードを挿入できます。
Code 11 バーコードは、電気通信デバイスを識別するために一般的に使用され、数値情報を効率的にエンコードできることで知られています。位置、コンテンツの設定可能性により、

バーの高さ、細いバーの幅とサイズ、バーは
コードはニーズに合わせて正確に設計できます。
特徴:
必要

— X 軸の位置:バーコードの X (水平) 位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:バーコードの Y (垂直) 位置を決定します。
ページ。

—内容:バーコードのテキスト内容を定義します。

Machine Translated by Google

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の狭いバーの幅を決定します。
コード。

—サイズ X 軸:バーコードの幅を定義します。

—サイズ Y 軸:バーコードの高さを定義します。

5.3.6 Code128、Code128A、Code128B、Code129C、GS1 Code128

これらのブロックを使用すると、さまざまなタイプの Code 128 バーコードを PDF ドキュメントに挿入できます。Code 128 バーコードは、英数字データのエンコードに非常に効率的であり、物流、輸送、商品管理などのさまざまな業界で使用されています。各バリエーションには独自の特徴があります

事実:
コード 128A は、 00 から 95 までの ASCII 文字 (09、AZ、および制御文字) と特殊文字をサポートします。

コード 128Bには、32 〜 127 の ASCII 文字 (09、AZ、az、および一部の特殊文字) が含まれます。

コード 128C は数値の二重エンコードに最適で、00 から 99 までの数字のペアをサポートしているため、よりコンパクトな表現が可能です。
GS1-128 (旧称 UCC/EAN-128) は、サプライ チェーン内の要素をグローバルに一意に識別するために使用され、データの整合性を高めるための特別なアプリケーション識別子が含まれています。

プロパティ : 必須

— X 軸の位置:バーコードの X (水平) 位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:バーコードの Y (垂直) 位置を決定します。
ページ。

—内容:バーコードのテキスト内容を定義します。

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の狭いバーの幅を決定します。
コード。

—サイズ X 軸:バーコードの幅を定義します。

—サイズ Y 軸:バーコードの高さを定義します。

Machine Translated by Google

5.3.7 コード39、コード93

これらのブロックを使用すると、PDF ドキュメントに Code 39 および Code 93 バーコードを挿入できます。
Code 39 と Code 93 はどちらも、在庫、識別、追跡管理のためにさまざまな業界で使用されている多用途のバーコード標準です。

Code 39 は、最も古く、最も広く使用されているバーコードの 1 つであり、次のように知られています。
そのシンプルさと信頼性。英数字 (A ～ Z、0 ～ 9) および一部の特殊文字をエンコードできます。 Code 93 は、より高いデータ密度と ASCII 文字セット全体をエンコードする機能を提供することにより、Code 39 の機能を拡張します。 Code 93 は、より多くの情報をより小さなスペースに保存できるため、在庫管理や物流追跡によく使用されます。

プロパティ : 必須

— X 軸の位置:バーコードの水平位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:ページ上のバーコードの垂直位置を決定します。

—内容:エンコードするバーコードのテキスト内容を定義します。

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の最も狭いバーの幅を決定します。
コードに影響を与えるため、バーコード全体の幅に影響します。

—サイズ X 軸:バーコードの全体の幅を指定します。

—サイズ Y 軸:バーコード全体の高さを指定します。

5.3.8 コード UPC

このブロックを使用すると、UPC (Universal Product Code) バーコードを PDF ドキュメントに挿入できます。 UPC バーコードは、特に小売業で広く使用されています。
特に米国とカナダでは、チェックアウト時や在庫システムで製品を明確に識別するために使用されます。 UPC バーコードは 12 桁で構成されており、製造元と製品に関する特定の情報が含まれています。

このタイプのバーコードは小売業にとって不可欠であり、製品をスキャンして識別するための迅速かつ効率的な方法を提供します。
特徴:
必要

Machine Translated by Google

— X 軸の位置:バーコードの水平位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:ページ上のバーコードの垂直位置を決定します。

—内容:エンコードするバーコードの数値内容を定義します。

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の最も狭いバーの幅を決定します。
コード。これはバーコード全体の幅に影響します。

—サイズ X 軸:バーコードの全体の幅を指定します。

—サイズ Y 軸:バーコード全体の高さを指定します。

5.3.9 EAN-13、EAN-8

これらのブロックを使用すると、PDF ドキュメント内に EAN-13 および EAN-8 バーコードを作成できます。 EAN バーコードは、小売業で製品をマーキングするために世界的に使用されている標準であり、製品に普遍的な方法を提供します。
識別。

EAN-13 は、より一般的に使用されている標準であり、グローバルな品目識別番号を表す 13 桁で構成されます。これは主に国際貿易に使用され、国識別子、メーカー識別子、商品番号、チェック ディジットが含まれます。 EAN-8 は EAN-13 バーコードの短縮バージョンで、8 桁で構成され、バーコードを配置するスペースが限られている製品に使用されます。これには、国コード、製造者コード、チェック ディジットが含まれます。

特徴:
必要

— X 軸の位置:バーコードの水平位置を決定します。
ページ。

— Y 軸の位置:ページ上のバーコードの垂直位置を決定します。

—内容:エンコードするバーコードの数値内容を定義します。

—バーの高さ:バーコード内のバーの高さを設定します。

—狭いバーの幅:バー内の最も狭いバーの幅を決定します。
コードに影響を与えるため、バーコード全体の幅に影響します。

—サイズ X 軸:バーコードの全体の幅を指定します。

—サイズ Y 軸:バーコード全体の高さを指定します。

Machine Translated by Google

5.4 その他のブロック

このブロック カテゴリには、相対ブロックにも絶対ブロックにも完全に割り当てることができないブロックが含まれます。

5.4.1 コメント

この特殊なブロック タイプは、ドキュメント内の構造化とコメントを作成して、編集と概要を容易にするために設計されています。コメント ブロックには、プロパティで指定された名前と、ブロック階層で選択された背景色が表示されます。この視覚的なマーキングは、文書作成プロセスにおいてセクションや重要なメモを迅速に識別して整理するのに役立ちます。コメント ブロックの背景色は、別のコメント ブロックがこの設定を新しい色で更新するまで、後続のすべてのブロックにも適用されます。

この機能により、さまざまなドキュメントを視覚的に明確に分離できます。
セクションやメモを記載します。

特徴:

オプション

—テキスト:コメントのテキストは、セクションまたは後続のブロックの特定の機能のメモまたは説明として機能します。

—背景色:背景色は、注釈が付けられた領域の視覚的な境界を示します。これは文書の視覚的な構造化をサポートし、さまざまな領域を一目で区別するのに役立ちます。

5.4.2 イテレータ

BlockPDF のIterator ブロックは、データ セットのデータに基づいてコンテンツを繰り返し表示するために使用されます。これにより、データのリストを反復処理したり、各要素をドキュメント内の別個のセクションまたは行として出力したりするなど、PDF コンテンツを動的に作成できます。 Iterator ブロックの主な機能は、一連のデータを反復処理し、データ要素ごとに特定のサブブロックを描画することです。これにより、繰り返し構造またはパターンを含む複雑なドキュメントの自動作成が容易になります。

特徴:

必要

—イテレータ ワークフロー名:イテレータの実行方法を決定するワークフローの名前。データの反復処理が行われます。この名前は、特定の機能を説明するために使用されます。

Machine Translated by Google

データの処理を担当する特定のワークフローを特定する
は。

—イテレータ データ:反復される実際のデータ。このデータ
さまざまなソースから取得したり、XML、JSON、CSV などの形式にしたり、改行で区切ったりすることができます。

—イテレータ データ タイプ:イテレータ データの構造を定義するデータのタイプ。たとえば、これは、データをどのように解釈して表示するかを指定する特定のスキーマまたは形式である可能性があります。

5.4.3 繰り返し

このブロックにより、定義された数に基づいて特定のコンテンツまたはブロック構造を複製できるようになります。このメカニズムは、PDF ドキュメント内でリスト、表の行、またはあらゆるタイプの繰り返しパターンなどの繰り返し構造を作成する場合に特に役立ちます。

このブロックの中心的な機能は、プロパティの値に従って子ブロックを複数回描画することです。これにより、ユーザーは手動で繰り返すことなく、動的なコンテンツを含む複雑なドキュメントを効率的にデザインできるようになります。

機能: オプション

— n 回表示:子ブロックの繰り返し回数を決定します。このプロパティにより、複製の量を動的に調整でき、ドキュメント作成時の繰り返しブロックの柔軟性にとって重要です。

Machine Translated by Google

6

コマンドライン(CLI)

BlockPDF ソフトウェアのコマンド ライン インターフェイス (CLI) を使用すると、ユーザーは特定のコマンドを実行して PDF ドキュメントを生成できます。
このインターフェイスは、ドキュメント作成プロセスをカスタマイズするためのさまざまなオプションをサポートしています。

6.1 パラメーター覧

CLI は、ドキュメントの生成を制御するいくつかのパラメーターを受け入れます。

— ConfigurationFilePath (必須): 構成ファイルへのパス
生成されるドキュメントの仕様が含まれます。

—待機(オプション): コンソールを開いたままにし、ユーザーが出力を確認できるようにします。デバッグの目的や、実行が成功したことを確認する場合に役立ちます。

— IgnoreErrors (オプション): 次の場合でもドキュメントの生成を許可します。
エラーが発生すると、ドキュメントをできるだけ多く描画しようとします。
ねん。

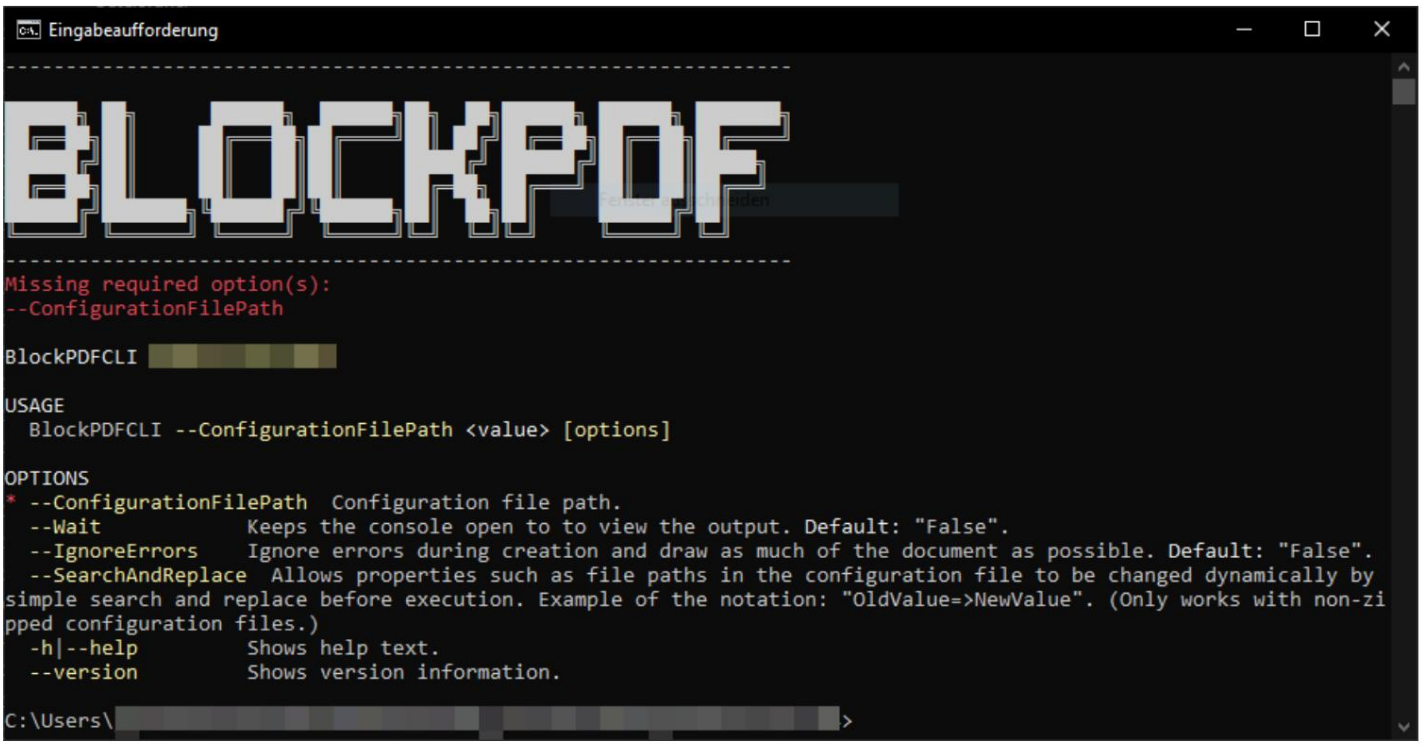
— SearchAndReplace (オプション): 単純な検索と置換操作を使用して、構成ファイル内のプロパティを動的に変更できます。

Machine Translated by Google

実行前の操作。

6.2 コンソールアプリケーションの出力

CLI は、成功メッセージやエラーなど、ドキュメント生成のステータスに関する情報を出力します。成功メッセージには作成されたドキュメントに関する詳細が含まれ、エラー メッセージには生成プロセスの問題が示されます。



CLI - 引数なし

この図は、必要な引数を指定せずにコマンドを実行した場合の CLI 出力を示しています。この場合、通常、ユーザーは必要なパラメータを指定するように求められます。

Machine Translated by Google

CLI - ドキュメントの作成が成功しました

ドキュメントが正常に作成されたことが、生成された PDF ファイルへのパスを含めてここに表示されます。

CLI - エラー出力

この図は、ドキュメントの作成中にエラーが発生した場合の CLI 出力を示しています。

Machine Translated by Google

7

ドキュメント、テンプレート、ブロック構造

BlockPDF は作成と管理に複数のファイル タイプを使用します
PDF ドキュメントのサブ要素を使用できます。これには以下が含まれます
.BlockPDF ドキュメント、テンプレート ファイル、およびドキュメントの作成をより簡単かつ迅速に行う既製のブロック構造。

7.1 BlockPDF ドキュメント (.BlockPDF)

.BlockPDF ドキュメントファイルは、BlockPDF でドキュメント レイアウトを定義するために使用される JSON 形式のファイルです。これにより、文書の要素と構造を記述することができます。これには、すべてのブロックとセットのプロパティが、多かれ少なかれ人間が判読できる形式で含まれています。

場合によっては、BlockPDF アプリケーションの外部で保存されたドキュメントの個々の側面を調整することをお勧めします。たとえば、出力フォルダーの相対パスを指定する場合や、 Windows のパスで%USERPROFILE%などのシステム環境変数を使用する場合などです。 。

7.1.1 .BlockPDF ファイルの例

この例では、ファイル構造の主な要素には次の要素が含まれます。
メント:

Machine Translated by Google

— $id と $type:オブジェクトのインスタンスとタイプを識別します。 $type の戻り値
タイプの名前。BlockPDF ソフトウェア内で編集する場合に重要です。

—バージョン:ドキュメント ファイルのバージョンを指定します。

—ドキュメント:識別子、 BlocksShallThrowExなどの詳細を含むルート要素
概念、およびChildren には以下が含まれます。

–識別子:ドキュメントの一意の ID。

– BlocksShallThrowExceptions:エラーが発生した場合にブロックが例外をスローするかどうか。
フェンするべきです。

– Children:ドキュメントを構成する子要素のリスト。

— PageBlock: PageFormatSizeと子要素を含む PDF ページを表します。
コンテンツの注意事項。

— TextBlock:テキストや太字などのプロパティを備えたコンテンツ ブロックの例
テキスト表示用。

— FilenameGenerator:出力のファイル名の生成を定義します。
PDF。

—パス: OutputDirectoryPath、 LastSaveDirectoryPath、 LastSaveFileNameは、最後に保存された
ドキュメントの保存場所と名前です。

```
1 {
2     "$id": "1"、
3     "$type": "BlockPDF_Core.PersistenceObject、BlockPDF_Core",
4     "バージョン": "1.0.0.0",
5     "書類"：{
6         "$id": "2"、
7         "$type": "BlockPDF_Core.BlockDocument、BlockPDF_Core",
8         "識別子": "a94781dd-9af5-4d02-9b07-dccb3f99b53d",
9         "BlocksShallThrowExceptions": true、
10        "子供たち"：[
11            {
12                "$id": "4"、
13                "$type": "BlockPDF_Core.PageBlock、BlockPDF_Core",
14                "ページフォーマットサイズ": {
15                    "$id": "5"、
16                    "$タイプ":
                      → "BlockPDF_Core.ConstantData`1[[BlockPDF_Core.PageFormat,
                      → BlockPDF_Core]]、BlockPDF_Core",
17                    "データ"：{
```

Machine Translated by Google


```
18                  "$id": "6",
19                  "$type": "BlockPDF_Core.PageFormat,BlockPDF_Core",
20                  「幅」：595.4、
21                  「高さ」：842.0、
22                  「単位」：「ポイント」
23              }
24          },
25          "子供たち"：[
26              {
27                  "$id": "7",
28                  "$type": "BlockPDF_Core.PageContentBlock,BlockPDF_Core",
29                  "子供"：{
30                      "$id": "8",
31                      "$type": "BlockPDF_Core.TextBlock,BlockPDF_Core",
32                      "文章"：{
33                          "$id": "9",
34                          "$タイプ":
                            → "BlockPDF_Core.ConstantData`1[[BlockPDF_Core.GenericClassValue`1[[System.String,
                            → System.Private.CoreLib]],BlockPDF_Core]],
                            → BlockPDF_Core",
35                          "データ"：{
36                              "$id": "10",
37                              "$タイプ":
                                → "BlockPDF_Core.GenericClassValue`1[[System.String,
                                → System.Private.CoreLib]],BlockPDF_Core",
38                              「値」:「Hello, World!」
39                          }
40                      },
41                      "大胆な"：{
42                          "$id": "11",
43                          "$タイプ":
                            → "BlockPDF_Core.ConstantData`1[[BlockPDF_Core.GenericStructValue`1[[System.Boolean,
                            → System.Private.CoreLib]],BlockPDF_Core]],
                            → BlockPDF_Core",
44                          "データ"：{
45                              "$id": "12",
46                              "$タイプ":
                                → "BlockPDF_Core.GenericStructValue`1[[System.Boolean,
                                → System.Private.CoreLib]],BlockPDF_Core",
47                              「値」: true
48                          }
49                      },
50                      "TreeViewIsExpanded": true
51                  },
52                  "子供たち"：[
53                      {
54                          "$ref": "8"
```

Machine Translated by Google


```
55                          }
56                      ],
57                      "TreeViewIsExpanded": true
58                  }
59              ],
60              "TreeViewIsExpanded": true
61          }
62      ],
63      "TreeViewIsExpanded": true
64  },
65  "ファイル名ジェネレーター": {
66      "$id": "13",
67      "$type": "BlockPDF_Core.FilenameGenerator、BlockPDF_Core",
68      「要素」: [
69          {
70              "$id": "14",
71              "$type": "BlockPDF_Core.FilenamePartConstant, BlockPDF_Core",
72              "定数": "ファイル名の例"
73          }
74      】
75  },
76  "OutputDirectoryPath": "C:\\Users\\USER\\Downloads\\",
77  "LastSaveDirectoryPath": "C:\\Users\\USER\\Downloads",
78  "LastSaveFileName": "example.BlockPDF"
79 }
```


7.1.2 特殊変数

TODO: !現在のファイルパス!:

7.2 テンプレートファイル

7.2.1 ドキュメントテンプレート (.BlockPDF.zip)

ドキュメント テンプレート (.BlockPDF.zip) は、.BlockPDF ファイルと、画像、Excel ファイル、フォントなどの追加リソースを含む圧縮ファイルです。

が成立する。これにより、ドキュメント テンプレートの交換と配布が容易になります。

すべての必要な要素が 1 つのファイルにバンドルされているためです。ドキュメント テンプレートは、保存ダイアログを使用してアプリケーションで作成できます。

すべてのファイル パスは交換用に自動的に調整されます。付属

ファイルパスのみが調整されることに注意してください。パスワード付きの SQL 接続が使用されている場合、これは .BulkPDF ファイル内に残ります。

テンプレート内にあるため、手動の後処理で削除する必要があります。

Machine Translated by Google

7.2.2 プレハブブロック構造 (.BlockPart)

プレハブ ブロック構造 (.BlockPart) は、.BlockPDF ドキュメントの構築ブロックです。
一般的に使用されるブロック構造をカプセル化します。ユーザーはこれらの構造をドキュメントに挿入して、複雑なレイアウトをすばやく作成できます。
毎回最初から始めなければなりません。

7.2.3 テンプレートとブロック構造の提供

BlockPDF は、テンプレートの検索と統合に柔軟なシステムを使用しています
そしてブロック構造。ソフトウェアは指定されたディレクトリを検索します
関連するファイル拡張子を持つファイル (ドキュメント テンプレートの場合は .BlockPDF、ブロック構造の場合は .BlockPart など)。これらのファイルは使用可能であると識別されます。
リソース。このプロセスにより、ローカル ファイル システムから直接テンプレートを使用できるようになります。
追加のインデックス作成を必要とせずに、またはネットワーク フォルダーにアクセスできます。

フォルダー内の直接検索に加えて、BlockPDF はテンプレートを作成するオプションを提供し、
詳細情報を含むJSONファイルを使用して構造を定義します
個々のリソースの場合。これらの JSON ファイルは、
オブジェクトの配列。各オブジェクトはソースを含む名前付け可能で書き込み可能なエントリを表します。 「ソース」はローカル ファイルを指すことができます。
ネットワーク パスまたは URL を指します。
このような JSON ファイルの内容の例は次のようになります。

```
[
    {
        "名前": "テンプレート1",
        "タイプ": "ブロックパーツ",
        "ソース": "https://example.com/vorlage1.BlockPart",
        "説明": "頻繁に使用されるブロック構造
         →フォーム。」
    },
    {
        "名前": "テンプレート2",
        "タイプ": "ドキュメントテンプレート",
        "ソース": "https://example.com/vorlage2.BlockPDF.zip",
        "説明": "標準ドキュメント テンプレート"。
    },
    {
        "名前": "テンプレート3",
        "タイプ": "ドキュメントテンプレート",
        "ソース": "C:\\Documents\\Templates\\template3.BlockPDF.zip",
        "説明": "グラフィックスと
         →フォント。」
```

Machine Translated by Google

```
19          }
20 ]
```

2つの方法はスキャンすることで原稿を自動的に認識します
ファイルタイプごとにフォルダーを表示し、必要に応じてリソースを定義します。
JSON ファイルを使用すると、さまざまな作業コンテキストにカスタマイズ可能な統合が可能になります。ユーザーは、ローカルまたは
必要に応じてネットワークを取得し、利用します。これにより、ドキュメントのテンプレートと構造の共有使用がサポートされます。

Machine Translated by Google

8

ローカル設定ファイル

この章では、プログラムの作業ディレクトリ (Windows 上) にある Con-figuration.ini ファイルを使用した BlockPDF ソフトウェアの構成について説明します。
おそらく: %appdata%\BlockPDF)。 Configuration.ini ファイルにより、次のことが可能になります。
特定のニーズに合わせてソフトウェアのさまざまな側面を柔軟にカスタマイズできます。

Configuration.ini ファイルの例の内容は、以下と次の場所にあります。
次のセクションでは、カテゴリとその個別のオプションについて説明します。

Machine Translated by Google

```
[UI]
IntroductionHasBeenShow = True
LastOpenFileDialogPath = C:\Users\USER\Downloads
LastOpenFolderDialogPath = C:\Users\USER\Downloads
LastSaveFileDialogPath = C:\...\Templates\Documents
自動プレビュー更新= True
GlobalUIScale = 1
言語=英語
CheckForFileNameErrors = True
ShowWelcomeText = False

[テンプレート]
LastTemplateUpdate = 01/01/2024 00:00:00
DocumentTemplateSources = C:\...\Templates\Documents\

［自動保存］

[コア]
SelectedUpdateChannel =リリース
```

8.1 テンプレートエリア

— DocumentTemplateSources:ドキュメント テンプレートが検索されるディレクトリなる。複数のディレクトリをセミコロンで区切って指定できます
なる。

例: C:\Users\Users\Documents\Templates;C:\Templates\Shared

— BlockPartSources:ブロック パーツ テンプレートが検索されるディレクトリ。複数のディレクトリをセミコロンで区切って指定できます
なる。

例: C:\Users\Users\Documents\BlockParts;C:\BlockParts\Shared

—AutomaticTemplatesUpdateEnabled :テンプレートの自動更新を有効または無効にします。選択すると、テンプレートが自動的に作成されます。
表が更新されました。

例: true

— hoursBetweenAutomaticUpdate:自動更新間の時間数
チェンが更新します。

例: 24

Machine Translated by Google

— LastTemplateUpdate:テンプレートが最後に更新された時刻。

例: 2023-01-01T12:00:00

8.2 UIエリア

—言語:ユーザー インターフェイスの言語。

例:デ

— LastOpenFileDialogPath:ファイルを開くダイアログで最後に使用されたパス。

例: C:\Users\Users\Documents

— LastSaveFileDialogPath:ファイル保存ダイアログで最後に使用されたパス。

例: C:\Users\Users\Documents

— LastOpenFolderDialogPath:フォルダー選択ダイアログで最後に使用されたパス
ログ。

例: C:\Users\Users\Documents

—自動プレビュー更新:選択すると、プレビューが自動的に更新されます。
表が更新されました。

例: true

— PreviewDPI:プレビューの DPI 値。

例: 100

— PreviewScale:プレビューのスケーリング値 (パーセント単位)。

例: 50

—自動更新ファイル名プレビュー:選択すると、ファイル名のプレビューが表示されます。
プレビューは自動的に更新されます。

例: true

— MaximumNumberOfRowsForAPreview:レビューの最大行数
プレビューします。

例: 50

— GlobalUIScale: UI スケール係数。

例: 1.0

— DefaultValueIgnoreFirstRowOfData:選択した場合、最初の行
データは無視されます。

例: false

Machine Translated by Google

— MaxNumberOfLastusedDocuments:最後に使用したドキュメントの最大数
メンテ。

例: 5

— CheckForFileNameErrors:ファイル名のエラーをチェックします。

例: true

— AskIfDocumentsShouldBeOverwrite:ドキュメントを上書きする必要があるかどうかを尋ねます
そうあるべきだ。

例: true

— IntroductionHasBeenShown:導入がすでに表示されているかどうかを示します
となった。

例: false

— BlockDocumentGif IntroductionHasBeenShown:導入かどうかを示します。
すでに表示されています。

例: false

— NotifyWhenANewVersionIsAvailable:新しいバージョンが利用可能になったときに通知します
バージョンが利用可能です。

例: true

— ShowWelcomeText:ようこそテキストを表示します。

例: true

— SkippedVersion:通知のスキップされるバージョンを指定します
メント。

例: 2.1.0

— MaximumNumberOfSoftwarePageChangesSaved:保存される最大数
安全なページ変更。

例: 10

8.3 コア領域

— MaximumNumberOfPersistenceObjectStates:状態の最大数
永続オブジェクト用のもの。

例: 10

Machine Translated by Google

— DefaultPageFormat:ページのデフォルトの形式。

例: 595.4;842;ポイント

— PDFImportDPI: PDF インポートの DPI。

例: 300

— SelectedUpdateChannel:選択された更新チャネル。

例:リリース

— NodesCacheMinimum:ノード キャッシュ内のアイテムの最大数。

例: 500

8.4 自動保存領域

— AutoSaveEnabled:選択すると、自動保存が有効になります。

刺激された。

例: true

— AutoSaveInterval:分単位の自動保存間隔。

例: 30

— MaxAutoSaveAgeDays:自動保存の最大保存期間

数日で。

例: 7

— MaxAutoSaveCopies:自動保存コピーの最大数。

例: 3

やるべきこと

Machine Translated by Google

9 ヒントとコツ

PDF ドキュメントの作成に役立つヒントとテクニックのセレクション
助けることができます。

9.1 通常の PDF ファイルをテンプレートとしてインポートする

ホームページの「既存ドキュメントのロード」オプションを使用すると、次のことができます。
PDF ドキュメントを選択すると、BlockPDF ドキュメントに変換されます。
向きを変えられています。この変換は簡単なプロセスで行われます。
PDF の個々のページを画像として新しいドキュメントに埋め込むことができます。
ページごとにページ ブロックが作成され、そのページ ブロックにレイヤー ブロックが従属し、そこにページ画像が挿入されます。画像の下にレイヤーを追加することでドキュメントを調整できるようになりました

追加のブロック構造を挿入できます。

9.2 ドキュメントおよびドキュメント内の相対パスとシステム変数 メントテンプレート

相対パスとシステム変数をドキュメント ファイル内で使用できます。
なる。ファイル (セクション7.1 を参照)は外部テキストにリンクする必要があります。
エディター (例: Visual Studio Code)。相対パス

Machine Translated by Google

システム変数は、ファイルのロード時に BlockPDF によって解決されます。

9.3 相対行

相対的な列の可能性を提供する列コンテナとは対照的に
定義すると、行コンテナ内の相対行に直接相当するものはありません。ただし、創造的なアプローチを使用すれば、同様の動作を再現できます。相対行をシミュレートする 1 つの方法が存在します

まず列コンテナを左に回転してから、
各列の内容を右に回転します。このアプローチにより、相対的な行のレイアウトに似るようにレイアウトを調整することが可能になります。それ
ただし、この手法には制限があることに注意することが重要です。
これには改ページが含まれるため、すべての状況において完全な解決策を示すわけではありません。

9.4 透かし

ウォーターマークは、レイヤー ブロックを使用して PDF ドキュメントに統合できます。たとえば、レイヤーブロックは「Contents of
「Pages」ブロック。ウォーターマークが最初のブロック構造になります。
実際のページのコンテンツは、その後に続くブロック構造です。依存
並べ替えに応じて、透かしはコンテンツの下または上に表示されます。
この技術により、半透明の画像やテキストを上下に配置することができます。
メインコンテンツを邪魔せずに配置します。

9.5 接続文字列

有効な接続文字列の例は、ユーザー名とパスワードを使用した接続の場合です。

```
サーバー=myServer;データベース=myDataBase;ユーザーID=myUser;パスワード=myPassword;
```

Active Directory ログインを使用した「信頼された接続」の場合は、次のとおりです。

```
サーバー=myServer;データベース=myDataBase;Trusted_Connection=True;
```

さらなる例については、次の Web サイトをご覧ください https://
www.connectionstrings.com/sql-server/。

Machine Translated by Google

9.6 ドキュメントを同時に印刷する

作成したすべてのドキュメントを同時に物理的に印刷する場合は、プログラムの最後のページで「すべてのドキュメントを結合して標準 PDF ビューアを開く (大量印刷用など)」ボタンを使用できます。さらに確認した後、すべてのドキュメントが再作成され、完全な PDF ドキュメントに結合されます。作成されたドキュメントは標準の PDF ビューアで開かれ、そこからすぐに印刷できます。

そこでは、印刷オプションを使用して、印刷しないページを設定することもできます。

9.7 日付のフォーマット

日付の書式設定には書式設定文字列が使用されます。この文字列は、形式を定義するいくつかの文字で構成されます。形式dd.mm.yyyyは、たとえば日、月、年を出力する有効な日付形式です(例: 2021 年 11 月 25 日)。

Microsoft .NET ドキュメント[5]の次の表を参照してください。

フォーマット指定子	説明1 から 31 ま	例
「d」	での日付。 詳細: 「d」カスタム形式指定子。	2009-06-01T13:45:30 ->1 2009-06-15T13:45:30 ->15
「dd」	01 から 31 までの月の日。 詳細: 「dd」カスタム形式指定子。	2009-06-01T13:45:30 ->01 2009-06-15T13:45:30 ->15
「ddd」	曜日の短縮名。 詳細: 「ddd」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->月 (en-US) 2009-06-15T13:45:30 -> (る-る) 2009-06-15T13:45:30 ->ルン。 (フランス-フランス)
「dddd」	曜日の完全な名前。 詳細: 「dddd」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->月曜日 (米国) 2009-06-15T13:45:30 -> (る-る) 2009-06-15T13:45:30 ->ルンディ (フランス-フランス)
「ふ」	日付と時刻の値の 10 分の 1 秒。 詳細については、「f」カスタム形式指定子を参照してください。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->6 2009-06-15T13:45:30.05 ->0
「ふ」	日付と時刻の値の 100 分の 1 秒。 詳細: 「ff」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->61 2009-06-15T13:45:30.0050000 ->00
「ふふ」	日付と時刻の値のミリ秒。 詳細: 「fff」カスタム形式指定子。	2009/6/15 1:45:30.617 ->617 2009/6/15 13:45:30.0005 ->000
「ふふふ」	日付と時刻の値の 10,000 分の 1 秒。 詳細: 「ffff」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175000 ->6175 2009-06-15T13:45:30.0000500 ->0000
「ふふふ」	日付と時刻の値の 100,000 分の 1 秒。 詳細: 「fffff」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175400 ->61754 2009/6/15 13:45:30.000005 ->00000
「ふふふふ」	日付と時刻の値の 100 万分の 1 秒。 詳細: 「ffffff」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175420 ->617542 2009-06-15T13:45:30.0000005 ->000000
「ふふふふふ」	日付と時刻の値の 1000 万分の 1 秒。 詳細: 「fffffff」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175425 ->6175425 2009-06-15T13:45:30.0001150 ->0001150
「ふ」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 10 分の 1 秒。 詳細: 「F」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->6 2009-06-15T13:45:30.0500000 ->(出力なし)
「FF」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 100 分の 1 秒。 詳細については、「FF」カスタム形式指定子を参照してください。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->61 2009-06-15T13:45:30.0050000 ->(出力なし)

Machine Translated by Google

「FFF」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値のミリ秒。 詳細: 「FFF」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->617 2009-06-15T13:45:30.0005000 ->(出力なし)
「FFFF」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 10,000 分の 1 秒。 詳細: 「FFFF」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.5275000 ->5275 2009-06-15T13:45:30.0000500 ->(出力なし)
「ふふふ」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 100,000 分の 1 秒。 詳細: 「FFFFF」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175400 ->61754 2009-06-15T13:45:30.0000050 ->(出力なし)
「FFFFFF」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 100 万分の 1 秒。 詳細: 「FFFFFF」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175420 ->617542 2009-06-15T13:45:30.0000005 ->(出力なし)
「FFFFFFFF」	ゼロ以外の場合、日付と時刻の値の 1000 万分の 1 秒。 詳細: 「FFFFFFF」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6175425 ->6175425 2009-06-15T13:45:30.0001150 ->000115
「グ」、「グ」	時代とか時代とか。 詳細: 「g」または「gg」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30.6170000 ->AD
「は」	1 から 12 までの 12 時間制を使用した時間。 詳細: 「h」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:45:30 ->1 2009-06-15T13:45:30 ->1
「ふーん」	01 から 12 までの 12 時間制を使用した時間。 詳細: 「hh」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:45:30 ->01 2009-06-15T13:45:30 ->01
「は」	0 から 23 までの 24 時間制を使用した時間。 詳細: 「H」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:45:30 ->1 2009-06-15T13:45:30 ->13
「へー」	00 から 23 までの 24 時間時計を使用した時間。 詳細: 「HH」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:45:30 ->01 2009-06-15T13:45:30 ->13
「き」	タイムゾーン情報。 詳細: 「K」カスタム形式指定子。	DateTime 値の場合: 2009-06-15T13:45:30、子が指定されていません -> 2009-06-15T13:45:30、子 UTC ->Z 2009-06-15T13:45:30、親切ローカル ->-07:00 (ローカル コンピューターの設定によって異なります) DateTimeOffset 値の場合: 2009-06-15T01:45:30-07:00 –>-07:00 2009-06-15T08:45:30+00:00 –>+00:00
「ん」	0 から 59 までの分。 詳細: 「m」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:09:30 ->9 2009-06-15T13:29:30 ->29
「うーん」	分、00 から 59 まで。 詳細: 「mm」カスタム形式指定子。	2009-06-15T01:09:30 ->09 2009-06-15T01:45:30 ->45
「ま」	1 から 12 までの月。 詳細: 「M」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->6
「MM」	01 から 12 までの月。 詳細: 「MM」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->06
「うーん」	月の略称。 詳細: 「MMM」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->ジュン (en-US) 2009-06-15T13:45:30 ->ジュイン (フランス-フランス) 2009-06-15T13:45:30 ->ジュン (ZAへ)
「うーん」	月の完全な名前。 詳細: 「MMMM」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->6 月 (en-US) 2009-06-15T13:45:30 ->6月 (da-DK) 2009-06-15T13:45:30 ->u6月 (ZAへ)
「す」	2 番目は 0 から 59 までです。 詳細: 「s」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:09 ->9
「SS」	2 番目は 00 から 59 までです。 詳細: 「ss」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:09 ->09
「て」	AM/PM 指定子の最初の文字。 詳細: 「t」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->P (en-US) 2009-06-15T13:45:30 -> (はい-JP) 2009-06-15T13:45:30 ->(フランス-フランス)

Machine Translated by Google

「dd」	AM/PM 指定子。 詳細: 「tt」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->PM (en-US) 2009-06-15T13:45:30 -> (はい-JP) 2009-06-15T13:45:30 ->(フランス-フランス)
「はい」	0 から 99 までの年。 詳細: 「y」カスタム形式指定子。	0001-01-01T00:00:00 ->1 0900-01-01T00:00:00 ->0 1900-01-01T00:00:00 ->0 2009-06-15T13:45:30 ->9 2019-06-15T13:45:30 ->19
「ええ」	00 から 99 までの年。 詳細: 「yy」カスタム形式指定子。	0001-01-01T00:00:00 ->01 0900-01-01T00:00:00 ->00 1900-01-01T00:00:00 ->00 2019-06-15T13:45:30 ->19
「ええ」	最低 3 桁の年。 詳細: 「yyy」カスタム形式指定子。	0001-01-01T00:00:00 ->001 0900-01-01T00:00:00 ->900 1900-01-01T00:00:00 ->1900 2009-06-15T13:45:30 ->2009
「ええ」	4 桁の数字で表される年。 詳細: 「yyyy」カスタム形式指定子。	0001-01-01T00:00:00 ->0001 0900-01-01T00:00:00 ->0900 1900-01-01T00:00:00 ->1900 2009-06-15T13:45:30 ->2009
「ええ」	5 桁の数字で表される年。 詳細: 「yyyyy」カスタム形式指定子。	0001-01-01T00:00:00 ->00001 2009-06-15T13:45:30 ->02009
「ズ」	UTC からのオフセット時間 (先行ゼロなし)。 詳細については、「z」カスタム形式指定子を参照してください。	2009-06-15T13:45:30-07:00 ->-7
「ズッ」	UTC からの時間オフセット。1 桁の値の場合は先頭にゼロが付きます。 詳細: 「zz」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30-07:00 ->-07
「ズズズ」	UTC からの時間と分。 詳細: 「zzz」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30-07:00 ->-07:00
「:」	時刻区切り文字。 詳細: 「:」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->: (en-US) 2009-06-15T13:45:30 ->。 (イットIT) 2009-06-15T13:45:30 ->: (はい-JP)
「/」	日付区切り文字。 詳細: 「/」カスタム形式指定子。	2009-06-15T13:45:30 ->/ (en-US) 2009-06-15T13:45:30 ->- (ar-DZ) 2009-06-15T13:45:30 ->。 (TR-TR)
「文字列」 '弦'	リテラル文字列区切り文字。 詳細: 文字リテラル。	2009-06-15T13:45:30 ("arr:" h:mt) ->arr: 1:45 P 2009-06-15T13:45:30 ('arr:' h:mt) ->arr: 1:45 P
%	次の文字をカスタム書式指定子として定義します。 詳細:単一のカスタム形式指定子の使用。	2009-06-15T13:45:30 (%h) ->1
\	エスケープ文字。 詳細については、「文字リテラル」および「エスケープ文字の使用」を参照してください。	2009-06-15T13:45:30 (時間 \時間) ->1 時間
他のキャラクターでも	文字は変更されずに結果文字列にコピーされます。 詳細: 文字リテラル。	2009-06-15T01:45:30 (arr hh:mm t) ->arr 01:45 A

9.8 壁紙

背景画像は、レイヤー ブロックを使用して PDF ドキュメントに統合できます。たとえば、レイヤーブロックは「In-

Machine Translated by Google

単なる「ページ」ブロックであり、背景画像が最初のブロック構造であり、実際のページのコンテンツは後続のブロック構造です。

9.9 画像とファイルをデータソースにテキストとして保存する

画像はファイル パス経由で保存できるだけでなく、たとえば、直接保存することもできます。
テキストに変換してExcelに保存します。この目的のために
画像を Base64 でエンコードされたテキストに変換します。これはウェブサイトから行うことができます
https://emn178.github.io/online-tools/base64_encode_file.html行われる、
ファイルをローカルに処理し、結果をアップロードせずに処理します。
サーバー出力。結果のテキストを Excel のセルに配置できます。
入れる。画像情報を含むこの列は、BlockPDF の画像ブロックになります。
割り当てられると、テキストは自動的にデコードされ、ドキュメント内の画像が表示されます。
表示されます。この機能はアプリケーションのスプレッドシート ファイルと同様に SQL データ ソース向けであるため、実際に Excel でこれを行うことはお勧めできません。
セルに許可されている文字数はすぐに超えてしまいます。これが
スプレッドシートファイルを作成する場合は、LibreOfficeまたはVisual Studio Codeと組み合わせてCSVファイル形式を推奨します。全体の手順
たとえば、添付ファイルとして追加する必要がある他のファイルにも機能します。

9.9.1 画像とファイルをテンプレートに保存する

TODO: !CurrentFilePath!: ファイルを ZIP ファイルにコピーします

Machine Translated by Google

10

よくある質問

（よくある質問）

Machine Translated by Google

11

参考文献

[1] ブロックPDF
https://BlockPDF.de/

[2] MacOS - アプリの移転に関する警告https://
web.archive.org/web/20230930025305/https://help.obdev。 at/de/littlesnitch4/alert-warnings

[3]ポイント（タイポグラフィー）
https://en.wikipedia.org/wiki/Point_(タイポグラフィー)

[4] ExcelDataReader
https://github.com/ExcelDataReader/ExcelDataReader

[5] .NET の日付形式https://
docs.microsoft.com/en-us/dotnet/standard/base-types/
カスタムの日付と時刻の形式文字列